

授業科目名(英文名) ／Course Title	カリキュラム開発の実践と課題／Practice and Problems of the Curriculum Development		
代表教員(所属)／Instructor	青柳 宏(教育学部)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	M401110
開講学期曜日時限／Period	2017年度／Academic Year 前期／First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	学校をベースにした教育課程開発の意義を理解し、開発した内容・方法に関して実践と省察を行い、学校をベースにした教育課程の開発・実施について検討する。また、総合的な学習や特別活動と教科の関連を検討する。特に、同学年内の教科、総合的な学習、特別活動等の関係性(水平軸)と異なる学年間の教科、総合的な学習、特別活動等の関係性(縦軸)について事例をもとに考察をおこなう。また、そこで得られた知見をふまえて実際の教育現場の教育課程を検討し、課題を抽出し、課題に対する解決策を探っていく。		
授業の達成目標／Course Goals	(現職院生) 教育課程開発の理論をふまえて、各自が所属する学校の教育課程を検討し、課題を抽出し、課題に対する解決策を探っていくための技能を習得する。 (学卒院生) 学校をベースにした教育課程の開発を行う際に重要となる視点と教育課程の開発のための具体的な方法について知る。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	三つの力の中で、特に「学校改革力」の育成に資する。		
前提とする知識／Prerequisites	学部段階での「教育課程」に関わる授業(教職科目)で獲得されている知識を前提とする。		
関連科目／Related Courses	選択科目では、「言語活動を軸にした教育内容・方法論」と関連があります。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教育課程開発の理論について講義と討論を行った後、教育課程開発の具体的な事例を文献及びビデオを通して検討していく。尚、講義内容の検討及び事例の検討は全てグループによる討論によって行う。また、授業は毎回、青柳宏と和井内良樹によって行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の趣旨・進め方について説明する。「日本の学校の教育目標と教育課程」について講義する。 2. 「教育内容の組織化と人格・学力との関係」について講義した後、グループに分かれて「学力形成」のあり方、「人格形成」のあり方について討論する。 3. 「教育内容としての学校知：理論知と体験知」について講義した後、グループに分かれて「学校知」のもつ可能性と問題点について、また「体験知」の意義の見直しについて討論する。 4. 「教育内容選択の基礎原理：存在論的基礎」について講義した後、グループに分かれて、「環境」への自覚の必要性等について討論する。 5. 「教育内容構成における四つの柱」について講義した後、グループに分かれて「学問的要請」、「社会的要請」、「心理的要請」、「人間的要請」の四つの柱それぞれの意義と課題について討論する。 6. 「潜在的カリキュラム」について講義した後、グループに分かれて「潜在的カリキュラム」の意義と問題点について討論する。 7. 「教育課程における個性の位置づけ」について講義した後、グループに分かれて、特に「個と集団」の問題について討論する。 8. 事例の検討(その一) グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 9. 事例の検討(その二) グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 10. 事例の検討(その三) グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 11. 事例の検討(その四) グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 12. 事例の検討(その五) グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 13. 事例の検討(その六) グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 14. 事例の検討(その七) グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 15. 「教育課程の経営と評価」について講義する。 		
教科書・参考書等／Textbooks	安彦忠彦『改訂版 教育課程編成論』日本放送出版協会、2006年 佐藤学『カリキュラムの批評：公共性の再構築へ』世織書房、1996年		
成績評価の方法／Evaluation	授業終了時に課すレポート、討論における発言等を総合的に判断して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	講義内容をふまえた上で、創造的な意見を積極的にグループの中に出して欲しい。		

キーワード/Keywords	
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	個に応じた指導の実際と評価/Teaching Method for the Individuals and Evaluation		
代表教員(所属)/Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M401120
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	集団の中における個の理解の方法や個への対応を生かした集団指導の在り方を、授業データをもとに検討する。また、特別支援の知見を取り入れた学習法について理解する(原田浩司)。更に、指導と評価の一体化や教育課程の評価の方法を、事例を検討しながら理解する(久保田)。		
授業の達成目標/Course Goals	<p>(現職院生) 個に応じた指導の充実の現状と課題を理解し、よりよい実践方法を検討できる。 指導と評価の一体化を理解し、授業や教育課程の評価ができる。</p> <p>(学卒院生) 個に応じた指導の充実の現状と課題を理解できる。 指導と評価の一体化を理解し、授業や教育課程の評価ができる。 現職院生は、これまでの教育実践の省察を行うと共に、教育実践プロジェクトに繋がる課題に取り組むことで、理論と問題解決の方法の基礎を養う。学卒院生は、教育の最新事情を現職院生と共に学ぶことで、実践的指導力の基礎となる理論と方法を学ぶ。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	共通科目(必修) 主に、学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「特別支援教育の実践と課題」「カリキュラム開発の実践と課題」と関連がある。 選択科目では、「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」「学校評価の開発実践」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」などと関連する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>(授業の方法) 2名の教員によるオムニバス方式及び共同方式とする。授業は、「講義・演習・プレゼンテーション」とする。最初の6時間は、2名の教員が分担して講義をおこなう。次の6時間は、2名の教師から出された課題を、4名程度の追究班(1学年4班を想定)で解決する。課題は、前半の講義内容を発展させたものを、各教員が2つずつ作成する。課題を作成した教員が対応する追究班を指導する。最後の2時間は、課題解決の成果を全グループに向けてプレゼンテーションをする。</p> <p>(共に学ぶ効果と手だて) 現職院生のこれまでの実践を取り上げた事例研究を行うことで、現職院生は、自分とは異なる見方の学卒院生の意見を踏まえながら、実践をより批判的に振り返ることができる。また、学卒院生は、学校の現状や課題などを体験談から理解できるとともに、学校文化の理解を促進することができる。</p>		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<p>1. オリエンテーション（原田浩司、久保田善彦） 現在の学力観と、個に応じた指導や指導と評価の一体化と学力の関連を整理する。また、授業の進め方について説明する。</p> <p>2. 集団の中における個の理解（原田浩司） 集団と個が記録された数時間の同一授業データ（ビデオデータ及びその筆記録）を一人の生徒を中心にその学習過程が授業という集団的営みの中でどのように成立しているかを読み解く。</p> <p>3. 個に応じた指導の形態（原田浩司） ITや習熟度別学習、特別支援に関わる取り出し指導に関する学習計画について、学級全体の学習との関連から検討する。</p> <p>4. 学習のユニバーサルデザイン（原田浩司） 通常学級において教育方法を工夫することで、全ての人に等しく学習の機会を提供しようとする、「学習のユニバーサルデザイン(UDL)」について検討する。</p> <p>5～6. 授業参観と協議 実際の授業参観を通して、これまでの学修を整理する。更に、次の活動の必要性を理解する。</p> <p>7. 学習指導の過程における評価の意義と方法（久保田善彦） 学習者における学習の達成の状況を確認するとともに、学習デザインそのものを見直すためのフィードバックとしての評価の在り方を検討する。</p> <p>8. 学習および教育課程の評価法1（久保田善彦） 学習や教育課程の成果は数値で示されることが多い。実際のデータを使い統計的な有意差（直接確率計算）があるかを調べ、考察をする。</p> <p>9. 学習および教育課程の評価法2（久保田善彦） 学習や教育課程の成果は数値で示されることが多い。実際のデータを使い統計的な有意差（分散分析）があるかを調べ、考察をする。</p> <p>10?13. グループ別追究（原田浩司、久保田善彦） 受講者を4グループに分け、発表を課す。発表形式は発表内容に合わせて、「ケーススタディ形態」、「ワークショップ形態」、「プロプロジェクト科目形態」、「その他、上記を複合した形態」などの多様な形態を組み合わせる。 グループ活動を中心とするが、担当教員が1?2グループ別に指導・助言を行う。</p> <p>14?15. 追求成果の交流（原田浩司、久保田善彦） 発表時間は概ね授業時間の半分とし、受講者全員の質疑後、最後に教員が内容をまとめる。質疑の進行は発表グループが行うが、受講者全員の質疑が活性化するように、教員が指導・助言する。</p>
教科書・参考書等/Textbooks	各教員がその都度指定する。
成績評価の方法/Evaluation	授業記録の提出物・研究協議後の省察レポート、グループ別追究活動での発言や成果発表等のパフォーマンスを総合的に判断して評価する。
学習上の助言/Learning Advice	全員必修
キーワード/Keywords	
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	教材開発と教育方法の実践と課題/Practice and Issues in Teaching Method and Materials Development		
代表教員(所属)/Instructor	日野 圭子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M401210
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	教科教育論に関する研究および学校現場との協同研究の成果に基づき、思考力・判断力・表現力の視点、児童生徒および教師の実態に即した教材研究と指導法研究の視点から、学校現場で求められる教材開発と教育方法について理論と実践を統合しつつ考察を行う。適宜、グループワークやワークショップの手法を取り入れ、2つの視点に基づきながら授業モデル・実践例を分析、改良し、教師として求められる指導力を培う。		
授業の達成目標/Course Goals	学校現場で求められる教材開発と教育方法の視点を理解し、授業実践例を協同で分析、改善する力を養う。 (学卒院生) 教材開発・教育方法の基礎を固める。 (現職院生) これまでの自らの授業実践を省察し、よりよい教材開発・教育方法を習得する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	共通科目(必修)である。 主に授業力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	共通科目では、「授業研究の運営と課題」と関連がある。 選択科目では、「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」「授業改善とテクノロジー」と関連する。		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「授業研究の運営と課題」と関連がある。 選択科目では、「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」「授業改善とテクノロジー」と関連する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) 座学による講義だけでなく、事例をベースにした研究をする。授業実践の分析により児童生徒の思考力・判断力・表現力の実態を把握し、それに即した具体的な教材研究、指導法研究を行う。授業形態としてグループワーク、ワークショップを多用し、討議、発表、検討を有機的に関連づけて授業を展開していく。そこに2名の担当教員も適宜協同して参加する。 (共に学ぶ効果と手だて) 学卒院生と現職院生が共に学ぶ効果を上げるべく、グループメンバー構成を適宜変えるなどの工夫を図る。また、各メンバーの役割分担を行いつつ、役割(立場)を変えて一人ひとりが違った観点に立てるようにする。さらに、現職院生と学卒院生の知識経験の違い(差)が、者の質疑応答、意見交換の妨げになることのないよう、以下のような手立てを講ずる。発言・発表の時間を一定にし、口頭だけでなく、時には文章のやりとりなどによって相手がわからないようにし、全員で考え取り組めるようにする。「知識経験の豊富さが必ずしも正解や優れた実践につながっていかない」という本質や現実を、必要に応じて担当教師が紹介、解説をする。また、経験知識以上に考え、探究しなければ対処、対応できない事例や課題を与える。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回:オリエンテーション 第2回:理数教育に関わる今日的課題 第3回:思考力・判断力・表現力を高める授業を考える 第4回:授業実践の分析(担当教員が準備) 第5回:児童生徒の実態に即した教材研究 第6回:児童生徒の実態に即した指導法研究 第7回:授業実践の分析(担当教員が準備) 第8回:グループ別討議(授業の分析・改良) 第9回:グループ別討議(授業の分析・改良) 第10回:グループ別討議(授業の分析・改良) 第11回:グループ別討議(授業の分析・改良) 第12回:発表・検討会 第13回:発表・検討会 第14回:発表・検討会 第15回:まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	各教員がその都度提示する。		
成績評価の方法/Evaluation	・各授業での参加の様子と振り返りワークシート ・発表内容与方法 ・討議内容と検討内容 ・最終レポート		

学習上の助言／Learning Advice	学校種や教科の違いを超えた、一貫性、共通性のある授業分析・改善の観点をまず身に着けてもらいたい。それをもとに、各校種（学習異年齢者）、各教科（学習異分野・領域）に対する相互理解を深め、「具体的な一人ひとりの学習者」に役立つ教材研究と指導法研究を目指してもらいたい。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	授業研究の運営と課題		
代表教員(所属)/Instructor	松本 敏(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M401220
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 1, 月/Mon 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松本 敏(satoshim@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松本 敏(月曜日12時~12時30分, 火曜日10時30分~12時30分)		
授業の内容/Course Description	授業分析の視点と方法を具体的に学習し、ビデオ視聴により授業分析を行う。分析結果を、授業のねらい、子どもの理解との関係で論じ合い、授業改善の方策を探る。教科等の特質に応じた授業分析の方法についても事例をもとに考える。学校内外での教員研修やそで行われている授業研究の実態と課題について議論し、授業研究の質を高める議論の在り方についても省察と討論を通して考える。中学校を中心とした科目であるが連続性を踏まえ小学校の内容にも触れることとする。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 自らの授業観察の方法、授業を議論する方法を省察し、他の方法と比較して論ずることができる。授業研究会のファシリテーターとして、異なる意見を公平に扱い、議論を深めるための考え方や技能を習得する。 (学卒院生) 授業観察の方法、授業を議論する方法を身につける。 授業研究によって、授業改善への道筋を考えることができることを知る。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	共通科目、必修。「授業力」に関わる。		
前提とする知識/Prerequisites	授業を行った経験、授業観察を行った経験をもつこと。		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「教材開発と教育方法の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) ビデオによる授業の観察を行い、授業記録をとり、それをもとに授業研究会を行う作業を繰り返す。それにより授業観察の視点、意見の組み立て方、議論の仕方を訓練する。その過程で、その議論自体を省察し、自らの観察や意見の偏りについて自覚し、より公正で多面的な議論が行われるために必要な態度とスキルを身に付ける。 (共に学ぶ効果と手だて) 現職院生は授業研究を数多く経験しているのに対し、学卒院生は学部での教育実習や教職実践演習など限定的なものしか経験していない。このような差のある集団で、実際の授業を撮影したビデオを観察し記録を取り、それに基づいて議論を行う。 学卒院生は当初何を観察し何を記録すべきかさえ覚束ないかもしれないが、現職院生が経験に基づいて観察記録を書き進めるようすを見て、観察の視点や記録の取り方を学んでいく。グループごとの発表は、最初は現職院生が模範を示すが、2回目からは学卒院生に発表させるようにする。回を重ねるにしたがって、学卒院生の技能が上がっていく。 現職院生は学卒院生に当初範を示すだけに見えるが、学卒院生の観察の視点の新鮮さや子どもの気持ちへの寄り添い方など、経験を積んだためにかえって見失っていたものに気づき、自分の見方の偏りに気づくようになる。異なる視点や考え方から授業像を再構築する体験をし、授業観察や議論の仕方について反省的に学ぶ。これは、現場に戻ったときに、授業研究会のよりすぐれたファシリテーターになるための基礎を提供することになる。		

<p>授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule</p>	<p>1. オリエンテーション 授業の趣旨、進め方について説明する。日本における授業研究の歴史と国際的な位置づけ、県内外の現状と課題について講義する。（松本・人見）</p> <p>2. 授業研究の理論 現代のリフレクション理論や授業研究の理論について講義する。（松本）</p> <p>3. 授業研究の方法 現在行われているいくつかの授業研究方法について、比較検討する。（松本）</p> <p>4. 授業研究（1-1） 事例として中学校理科の授業ビデオを視聴し、予め指定した様式を基に、各自で授業記録をまとめる。（人見）</p> <p>5. 授業研究（1-2） 前時で視聴した授業について、授業研究会を行う。現職・学卒の混成で二つのグループに分かれる。初回なのでそれぞれについて教員がファシリテーターとなって進める。（松本・人見）</p> <p>6. 授業研究（2-1） 事例として中学校社会の授業ビデオを視聴し、予め指定した様式を基に、各自で授業記録をまとめる。（松本）</p> <p>7. 授業研究（2-2） 前時で視聴した授業について、授業研究会を行う。（松本・人見）</p> <p>8. 授業研究（3-1） 受講者による授業実践のビデオを視聴し、授業記録をまとめる。授業実践は現職教員のものを想定。（人見）</p> <p>9. 授業研究（3-2） 前時で視聴した授業について、授業研究会を行う。（松本・人見）</p> <p>10. 中間振り返り これまでの視聴や議論をもとに、自身の見方の変化をメタ認知的に振り返る。（松本・人見）</p> <p>11. 授業研究（4-1） 受講者による授業実践のビデオを視聴し、授業記録をまとめる。授業実践は現職教員のものを想定。（松本）</p> <p>12. 授業研究（4-2） 前時で視聴した授業について、授業研究会を行う。（松本・人見）</p> <p>13. 授業研究（5） 受講者による授業実践のビデオを視聴し、授業研究会を行う。授業実践は学卒院生のものを想定。（松本・人見）</p> <p>14. 授業研究の現状と課題 受講者それぞれの経験に基づいて授業研究の現状と課題について報告、討論する。（松本・人見）</p> <p>15. まとめ これまでを振り返って、授業を見る視点と観察の仕方、授業研究会（研究協議）での意見交換の仕方や意見のまとめ方についてレポートをまとめ、小グループで意見交換をする。（松本・人見）</p>
<p>教科書・参考書等／Textbooks</p>	<p>恒吉他編『授業研究—重要用語300の基礎知識』明治図書，1999年。 秋田 喜代美・キャサリン ルイス『授業の研究 教師の学習』明石書店，2008年。 その他 プリント教材を配布する。</p>
<p>成績評価の方法／Evaluation</p>	<p>授業記録の提出物・研究協議後の省察レポート、研究協議での発言等のパフォーマンスを総合的に判断して評価する。</p>
<p>学習上の助言／Learning Advice</p>	<p>授業を見る視点の広がりと、子どもの内面に寄り添う深まりを期待します。</p>
<p>キーワード／Keywords</p>	<p>授業研究，授業分析，校内研修</p>
<p>備考／Notes</p>	

授業科目名(英文名) /Course Title	生徒指導の実践と課題		
代表教員(所属)/Instructor	青柳 宏(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M401310
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	生徒指導に関する事例検討を通して、子ども理解の方法や、学校の体制、家庭、地域や関係機関との連携について検討する。また、スクールカウンセリング等のような生徒への個別の関わりと同時に、広く教育実践(授業を含む)における教育相談の実践の意義と方法について検討する。さらに、事例検討会等の場において多数の視点を尊重しながら検討をすすめていくための方法について考察する。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 自らの生徒指導・教育相談の方法を省察し、自分の行ってきた方法とは異なる方法と比較検討できるようになるとともに、事例検討会等の場において多数の視点を尊重しながら検討をすすめていくための技能を習得する。 (学卒院生) 生徒指導の方法を身につける。 生徒指導の方法を具体的に実践する際の課題について知る。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	三つの力の内、特に「個への対応力」の育成に資する。		
前提とする知識/Prerequisites	学部段階での「生徒指導」に関わる授業(教職科目)で獲得される知識を前提とする。		
関連科目/Related Courses	共通科目では「特別支援教育の実践と課題」と関連があります。 選択科目では「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」と関連があります。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	生徒指導を実践するために必要な理論について講義を行い、講義内容をふまえて、グループで討論を行う。特に現職院生及び実務家教員から学校現場における生徒指導事例を提示してもらい、その事例について検討していくことを繰り返し行う。また、授業は毎回、青柳宏と実務家・近藤秀人によって行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「子ども・生徒理解について：依存と自立のサイクル」について講義し、講義内容について、グループに分かれて討論する。 2. 「子ども・生徒理解のための人格モデル」について講義し、講義内容について、グループに分かれて討論する。 3. 「カウンセリングの方法」について講義を行い、講義内容をふまえ、ペアに分かれて「傾聴」を実践する。 4. 「不登校の生徒指導」について講義を行い、講義内容について、グループに分かれて討論する。 5. 「いじめの生徒指導」について講義を行い、講義内容について、グループに分かれて討論する。 6. 「非行及び校内暴力の生徒指導」について講義を行い、講義内容について、グループに分かれて討論する。 7. 「授業における教育相談的な実践」について講義を行い、講義内容について、グループに分かれて討論する。 8. 事例検討会(その一)*現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 9. 事例検討会(その二)*現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 10. 事例検討会(その三)*現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 11. 事例検討会(その四)*現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 12. 事例検討会(その五)*現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 13. 事例検討会(その六)*現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 14. 「構成的グループ・エンカウンターの理論と方法」について講義を行った後、グループに分かれ実践する。 15. 授業のまとめ*これまでの講義及び討論内容をふまえ、グループに分かれて生徒指導の課題について討論を行い、その後、発表をし合い、それをふまえてさらに全体で議論を行う。 		
教科書・参考書等/Textbooks	諸富祥彦『はじめてのカウンセリング』上・下、誠心書房、2010年 山下一夫『生徒指導の知と心』日本評論社、1999年		

成績評価の方法／Evaluation	授業終了後のレポート課題、及び授業時間中の討論における発言内容、また事例提示等を含め総合的に評価を行う。
学習上の助言／Learning Advice	現場経験者も未経験者も、講義内容をふまえ、新たな気持ちで事例に向き合って欲しい。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	特別支援教育の実践と課題／Practice and Problems of Special Needs Education		
代表教員(所属)／Instructor	司城 紀代美(教育学部)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	M401320
開講学期曜日時限／Period	2017年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	司城 紀代美(前期：水曜16:00～17:00, 後期：金曜17:00～18:00 その他メールにて問い合わせてください。)		
授業の内容／Course Description	現代の特別支援教育をめぐる諸問題について多様な視点から検討する。教育学的視点からは、特別支援教育と学校・学級経営について取り上げ、学校現場での経験に基づき、特別支援教育の実際と課題について考察を行う(原田)。また、心理学的視点からは、子どもの発達に関する研究成果に基づき、学校現場で求められる特別支援教育について理論と実践の統合の観点から考察を行う(司城)。		
授業の達成目標／Course Goals	(現職院生) 自分の実践を特別支援教育の視点からとらえ直す方法について理解する。 学術的な知見をもとに、学校現場で求められる特別支援教育のあり方について考察することができる。 (学卒院生) 特別支援教育の目的を理解し、支援に必要な知識や方法論を習得する。 他者の実践や事例から、特別支援教育のあり方を考察することができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	共通科目。 主に、「個への対応力」を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	共通科目では、「生徒指導の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業における個のとらえ方と対応」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」「障害が重い子どもへの教育の在り方」と関連します。		
関連科目／Related Courses	共通科目では、「生徒指導の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業における個のとらえ方と対応」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」「障害が重い子どもへの教育の在り方」と関連します。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	(授業の方法) 2人の授業者が教育学的視点、心理学的視点からの授業を分担して行う。実務家教員は学校現場での経験、研究者教員は学術研究における最新の知見を取り入れ、受講者の特別支援教育に関する見識を深める。その後、討論を通じて教育学的視点と心理学的視点、理論と実践の結びつきを強め、学術的な知見をもとにしながら現場で求められる特別支援教育について考える力を養成する。 (共に学ぶ効果と手だて) 現職院生はこれまでに特別支援教育に関する経験を重ね、問題意識も明確であろう。したがって、自分の実践をもとにしながら、学問的な理論を理解していくことができると考えられる。これに対し、学卒院生は実践的な経験が少ないため、理論を用いることで、自分が経験していない実践を読み解くことができると考えられる。このように、現職院生と学卒院生とは異なる方法で理論と実践を結びつけている。両者が少人数での討論においてじっくりと語り合うことで、理論と実践の結びつきはより強固なものになるといえる。		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への導入。授業の目的、進め方等について確認する。特別支援教育に対する個々の問題意識を明確にする。（原田・司城） 2. 特別支援教育をめぐる研究動向について概観する。（司城） 3. 発達心理学の知見をもとに特別支援教育における子どもの発達のとらえ方について検討する。（司城） 4. 教授学習心理学の知見をもとに支援が必要な子どもの学習について検討する。（司城） 5. 心理学における社会文化的アプローチの視点から、支援が必要な子どもと集団との関係を検討する。（司城） 6. 特別支援教育における学術的知見と実践との関係について討論を通じて考察する。（司城） 7. 特別支援教育の歴史を踏まえながら、現代の特別支援教育の動向について概観する。（原田） 8. 学校改革の視点から特別支援教育の現状と課題について検討する。（原田） 9. 学校における特別支援教育コーディネーターの役割と組織のあり方について検討する。（原田） 10. 学級集団づくり、授業づくりの視点から特別支援教育の現状と課題について検討する。（原田） 11. 実務家教員の学校現場における事例をもとに、特別支援教育のあり方に関する討論を行う。（原田） 12. 実務家教員、研究者教員それぞれの立場からの話題提供をもとに、学校と外部の専門家との連携のあり方について検討する。（原田・司城） 13. 授業を踏まえて各自が特別支援教育に関する課題と考える事柄に関してレポートをまとめ、報告し合う。（原田・司城） 14. 授業を踏まえて各自が特別支援教育に関する課題と考える事柄に関してレポートをまとめ、報告し合う。また、最後に全体討議を行う。（原田・司城） 15. まとめとして、授業全体の振り返りを行う。小グループに分かれ、自分自身の考え方や見方の変化について意見を交換し合う。（原田・司城）
教科書・参考書等/Textbooks	（参考書） 湯浅恭正編『よくわかる特別支援教育』ミネルヴァ書房，2008. 柘植雅義著『特別支援教育―多様なニーズへの挑戦―』中公新書，2013.
成績評価の方法/Evaluation	討論におけるパフォーマンス，レポート等を総合的に判断して評価する。
学習上の助言/Learning Advice	受講者一人ひとりが，自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。
キーワード/Keywords	
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	学校改革の実際と課題/Practice and Problems of School Reform		
代表教員(所属)/Instructor	小野瀬 善行(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M401410
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	近年の教育システムの変容に即して学校改革が求められるようになった背景と意義を認識したうえで、学校改革・改善の様々な種類とアプローチを学び、実際の学校改革事例などに即して学校改善に必要な視点と手法を獲得することを目指す。 学校の組織特性の理解のもとに、学校組織開発の観点から学校改善に必要な要素と手順をワークショップを行って探索し、これを基にPlan-Do-Check-Actionに即した具体的な改善プラン立案演習も行っていく。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 学校改善の推進者として、その基本的考え方と課題解決への実践的アプローチ法を習得する。 マネジメント・マインドを身に付けたミドル・リーダーとしての資質能力を身につける。 (学卒院生) 学校で実際に起こっている諸問題とその解決への道筋の多様性について理解する。学校組織の一員として自覚を持ち、同僚性の重要性に気づく。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	全学生対象の必修科目。特に「学校改革力」の育成を目指す。		
前提とする知識/Prerequisites	共通科目では、「学校教育をめぐる現代的な社会状況とその対処」「現代教師論」と関連がある。選択科目の「学校評価の開発実践」は、本科目の各論にあたる。これらの科目で学習する知識を体系的に理解して、自らの実践に活かすことが望ましい。		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「学校教育をめぐる現代的な社会状況とその対処」「現代教師論」と関連がある。選択科目の「学校評価の開発実践」は、本科目の各論にあたる。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) 専任教員が単独で担当する。講義とワークショップ、事例研究、プラン立案演習を行い、最後にプレゼンテーションを行う。 (共に学ぶ効果と手立て) 現職院生は、学校が抱える様々な課題やその解決方法について豊富な経験値を持っている。本授業で歴史や理論、また種々の解決手法、事例を学ぶことによってそれらを相対化かつ理論化し、実践知へと高めていく。学卒院生は、現職院生が語る様々な学校の実態や事例と重ね合わせながら学校改革・改善の必要性和理論を学んでいく。 後半のワークショップや演習では異なる立場の者が共に行うことで豊かな議論が展開されることを目標とする。さらに現職教員が実際の学校改善のリーダー役となる際に必要な異世代協働の体験やメンター・メンティーの疑似体験がなされることも期待される。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーション 教育改革と学校の関係 第2回 1990年代以降の教育改革の動向 第3回 今日の教育政策の理論と特質 第4回 教育システムの将来像を考える(演習) 第5回 学校改善の類型とマネジメント課題 第6回 学校組織開発の理論と実践 第7回 組織マネジメントを学ぶ①(ワークショップ) 問題の発見と解決 第8回 組織マネジメントを学ぶ②(ワークショップ) 目標設定演習 第9回 学校改善の手法としての学校評価 第10回 学校評価の事例分析と実践的課題 第11回 学校改善事例研究① 第12回 学校改善事例研究② 第13回 学校改善プラン立案①(演習) 第14回 学校改善プラン立案②(演習) 第15回 プレゼンテーション(学びのふりかえり)		
教科書・参考書等/Textbooks	篠原清昭編著『学校改善マネジメント 課題解決への実践的アプローチ』ミネルヴァ書房 2012年 佐古秀一編著『学校づくりの組織論』学文社 2010年 そのほかレジュメや参考文献を用意する。		
成績評価の方法/Evaluation	討論への参加状況、ワークショップ・演習での成果物、プレゼンテーションなどを総合的に判断して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	組織としての学校をエンパワメントしていくことは、日々の教育実践を充実させるためにも欠かせない。自らの経験や実践をふりかえりながら、「学校づくり」のためにどのような理論が唱えられてきたのか等を考察し、よりよい学校づくりのための複眼的な見方を学ぶ機会とされたい。		
キーワード/Keywords	自律的学校経営		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	学級経営の実践と課題/Practice and Subjects of Classroom Management		
代表教員(所属)/Instructor	丸山 剛史(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M401420
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 3, 月/Mon 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	学級経営とは、教室の環境を整備し、学級の子ども集団を教育目的の実現に向けて効果的に取り扱う教員の仕事である。本授業では学級経営の内容、役割、実践上の課題について、受講者の作成した学級経営案を取り上げるなどし、年間を通しての学級経営の計画と実施に関する実践事例をもとに学習を行う。なお、学卒院生など、学級経営に従事した経験がない場合には、見学・観察した事例等を取り上げることとする。		
授業の達成目標/Course Goals	①学級経営の実践的課題がわかる。 ②学級経営においては、(1)学級経営の目標・方針と学校全体の教育目標及び学年の共通理解との関係、(2)児童・生徒指導との関係、(3)学級集団の組織化、(4)家庭・保護者への連絡・指導、(5)教室の環境整備、(6)学校事務との関係に留意しなければならないことがわかる。 ③個性を發揮し、児童生徒が各自の個性に気づけるようにしつつ、学級集団の組織化及び学校教育目標の達成を企図した学級経営案を作成することができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学級経営は、教員にとって、教科の授業を中心とする学習指導の活動とならぶ重要な活動である。こうした学級経営の要点について実践的に深く理解することは、学校改革・授業改善のリーダーの育成において必須の内容である。		
前提とする知識/Prerequisites	共通科目「授業実践基礎」、または同「集団作り論」を受講していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	共通科目「授業実践基礎」、または同「集団作り論」を受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業の1/2は、学級経営に関する理論的学習を行う。理論的学習に関しては、研究者教員が説明を行い、実務家教員による実践例の紹介・補足説明を行いながら授業を進める。理論的学習といえども、受講者との質疑応答、討論、意見発表を重視する。 上記の理論的学習を踏まえ、残りの1/2は、受講者作成の学級経営案の報告と検討を行う。学校経営案の検討は、実務家教員を中心となっていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. ガイダンス：授業の趣旨、進め方について説明する。(丸山・近藤) 2. 学級経営の理論①学級経営の範囲、学級経営の歴史と類型(丸山・近藤) 3. 学級経営の理論②学級経営と学校・学年(丸山・近藤) 4. 学級経営の理論③学級経営と児童・生徒指導(丸山・近藤) 5. 学級経営の理論④学級集団の組織化(丸山・近藤) 6. 学級経営の理論⑤家庭・保護者への連絡・指導(丸山・近藤) 7. 学級経営の理論⑥教室の環境整備(丸山・近藤) 8. 学級経営の理論⑦学級経営と学校事務(丸山・近藤) 9. 学級経営の理論的学習に関する振り返りー要点の確認と意見交換(丸山・近藤) 10. 受講者Aの学級経営案の発表と検討(近藤・丸山) 11. 受講者Bの学級経営案の発表と検討(近藤・丸山) 12. 受講者Cの学級経営案の発表と検討(近藤・丸山) 13. 受講者Dの学級経営案の発表と検討(近藤・丸山) 14. 受講者Eの学級経営案の発表と検討(近藤・丸山) 15. まとめ：受講者が学習内容について発表するとともに意見交換を行い、学習を深め、総括を行う。(近藤・丸山)		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書：文部科学省『生徒指導提要』、2010年		
成績評価の方法/Evaluation	発表時の配付資料の内容、討議の際の発言内容、授業終了時のレポートを総合的に判断して評価を行う。		
学習上の助言/Learning Advice	学級経営の検討に際しては、子どもがどのように自立していくか、自分たちで自分たちをコントロールできるようになるかに留意して欲しいと考えています。		
キーワード/Keywords	学級経営、教室環境、子ども集団、集団づくり、学級経営案		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	学校教育をめぐる現代的な社会状況とその対処/The Post-modern Social Situation of School Education and the Coping with It		
代表教員(所属)/Instructor	小原 一馬(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M401510
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	小原 一馬(koharak@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	小原 一馬(水曜、木曜4コマ)		
授業の内容/Course Description	進学率の上昇やカリキュラムの一般化といった学校教育それ自身の変化や、情報化や価値観の多様化、消費社会化の進展といった社会全体の変化によって、学校教育の内容や方法、評価に関して、その意義に対する懐疑が進んでいる。そうした懐疑がなぜ進んだのか、そうした懐疑に客観的な根拠はあるのか、そうした懐疑に対して、学校教育の側はどのように対処すべきなのかを考察する。		
授業の達成目標/Course Goals	現職院生：教育現場が抱えている様々な問題や矛盾を振り返りつつ、それらを社会全体に関係づけ、より広い視野で捉えることができるようになること。 学卒院生：教育現場でどのような問題が生じているかを学びつつ、それらを社会全体に関係づけ、より広い視野で捉えることができるようになること。 現職・学卒院生共通：上記に加え、調査結果や統計といった客観的なデータによって、事実の検証ができるようになること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	個別の教育現場で起こっている問題を、社会全体の構造的問題に結び付けて、実践的に深く理解することは、学校改革・授業改善のリーダーの育成において必須の内容である。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識は特になし。 個人主義に関しては、「個に応じた指導の実践と評価」「授業における個のとりえ方と対応」「集団作り論」 保護者との関係に関しては、「学校と地域の連携に関する実践と課題」「生徒指導の実践と課題」に関係する。		
関連科目/Related Courses	前提とする知識は特になし。 個人主義に関しては、「個に応じた指導の実践と評価」「授業における個のとりえ方と対応」「集団作り論」 保護者との関係に関しては、「学校と地域の連携に関する実践と課題」「生徒指導の実践と課題」に関係する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(教育方法) 各トピックごとに、教員からの問題枠組みに関する説明を受けた後、教員が提示するデータをどのように解釈できるか、4、5人程度のグループごとに分析、議論を行う。各グループは、現職・学卒の混成とし、互いの持つ情報を交換できるようにする。そのグループごとの議論の結果を、全体で共有したうえで、そうした状況に対して、教員や学校側からどのような対処が可能かさらに議論を行い、発表する。 (共に学ぶ効果と手立て) 現職院生からは教育現場で実際にどのような問題が生じているのかに対する情報を提供してもらい、学卒院生からは、より若く、現在の児童生徒により近い視点からの現代の教育的問題の見方を提供してもらうことで、話し合いを通じてそれぞれより広い視点からの見方を得てもらう。		

<p>授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule</p>	<p>第1回から第7回は、子どもたちから「なぜ勉強しなければいけないの」という疑問が出るようになってきた教育および社会の様々な背景について考察を行っていく。そこでは以下のような要因をとりあげ、それぞれ検討する。 特に学歴社会に関しては、学歴の社会における影響の変化や諸外国との比較に関するデータを検討し、なぜ学歴社会と言われるようになったのかも同時に検討する。</p> <p>①日本は学歴社会なのか（先進国諸国との比較） ②日本における学歴の重要性の変化 ③進学率の上昇とカリキュラムの一般化（単線型学校制度、職業教育の衰退） ④消費社会化と大人と子どもの関係の変化、教員と保護者の関係の変化 ⑤価値観の多様化1 生産システムの変化（少品種大量生産から、多品種少量生産へ） ⑥価値観の多様化2 大きな物語の衰退、データベース消費へ ⑦情報化知識のストックモデルからフローモデルへ、マスメディアから双方向メディアへ</p> <p>第8回から第10回は、これまで検討した様々な変化にも関わらず、それでも人々が学歴を重視するのはなぜなのか、人的資本論、スクリーニング理論など、教育社会学の様々な仮説を検討する。また教育の社会的意味や機能に関する教育社会学の理論も確認する。</p> <p>⑧学歴に関する教育社会学の諸理論（人的資本論、スクリーニング理論） ⑨学歴に関する教育社会学の諸理論（その他の理論） ⑩学歴と経済システム</p> <p>第11回から第14回は、教育の社会的意味の検討からさらに進めて、社会が他者を勉強させるのはなぜなのか、義務教育制度が進められた社会的要因に関し、歴史を遡って分析を進め、現在との比較を行う。</p> <p>⑪義務教育制度のメリットとデメリット ⑫義務教育制度発展の4つの仮説 ⑬近代化以前の義務教育制度 ⑭近代化以降の義務教育制度</p> <p>第15回は全体のまとめを行う。</p>
<p>教科書・参考書等／Textbooks</p>	<p>教科書はとくに用いない。資料は必要に応じて配布する。</p>
<p>成績評価の方法／Evaluation</p>	<p>グループ内での議論への参加と、レポートにより、判断する。</p>
<p>学習上の助言／Learning Advice</p>	<p>現場では目の前の問題への対処に追われ、社会全体の変化への視点が失われがちです。院生という立場を生かし、現場との距離をとることで、広い視野からの問題解決の方法を探っていくて下さい。</p>
<p>キーワード／Keywords</p>	
<p>備考／Notes</p>	

授業科目名(英文名) /Course Title	現代教師論		
代表教員(所属)/Instructor	小野瀬 善行(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M401520
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	教師の力量形成とそれを支える諸制度について多角的に検討していく。まず、教員の地位や専門職としての教員の役割期待の変遷を政策的に跡づけ、現代の教師の社会的役割を明確にした上で、教師の力量形成の実態と課題を教員養成と現職教育の両面から明らかにする(小野瀬善行)。次に、具体的な教師の学びに焦点をあて、教師が日々の実践や授業研究の中から実践的知識を構築していく過程を心理学的視点から明らかにする。(司城紀代美)。さらに、教員評価の観点から教師の力量形成の実態と課題を考察する(瓦井千尋)。		
授業の達成目標/Course Goals	<p>(現職院生) 自らの教師としての成長を振り返り、キャリア形成に積極的に取り組む意欲を持つことができる。 教師全体の力量形成の方法と学校内での組織化についての考え方と方法論を習得する。</p> <p>(学卒院生) 学部段階で身に付けた自らの教師としての力量を客観的に把握することができる。 専門職としての教師の役割を理解し、今後のキャリアパスを見通して力量形成を図っていく方法を理解する。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	主に、「学校改革力」を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	共通科目における「カリキュラム開発の実践と課題」「授業研究の運営と課題」「学校改革の実際と課題」、選択科目における「学校評価の開発実践」「授業基礎論」で学習する知識と関連を有する。		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「カリキュラム開発の実践と課題」「授業研究の運営と課題」「学校改革の実際と課題」と関連する。選択科目では、「学校評価の開発実践」「授業基礎論」と関連する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>(授業の方法) 3人の教員の専門領域に従って講義及び演習を進め、一部共同で行う。現職院生は、自分のキャリア形成を振り返り今後の成長の見通しを持つための演習を、学卒院生は、学部段階で身に付けた自らの資質能力を「学びの軌跡」(履修カルテ)を用いて確認する演習をワークショップ方式で行う。また、教師が実践から協働的に学ぶ過程を体験的に検証するため、現職院生、学卒院生が共に視聴した授業ビデオや事例について討論する演習を行う。</p> <p>(共に学ぶ効果と手だて) 教師としての経験の無い学卒院生にとって、現職院生ライフストーリーは生きた教材となる。現職教員にとって、学卒院生が抱く教師像や教職への期待は、そのまま自らの教職生活を客観視する契機となる。こうした経験の有無による違いを超えて両者が共に現在の教師の資質に対する強い期待と現状、課題を学ぶことで、キャリアに応じた力量形成の方法とそれを学校を拠点に形成していく際の視点が多角的になる。授業では両者の語り合いを大切にしていきたい。</p>		

<p>授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule</p>	<p>第1回 オリエンテーション（小野瀬・司城・瓦井） 第2回 教員の資質向上に関する政策・提言などから、教員の力量形成をめぐる課題と方策を具体的に明らかにしていく。（小野瀬） 第3回 教師の仕事についての考え方、実態に関する研究論文について検討し、現在の日本の教師が直面している困難や課題を明らかにする。（小野瀬） 第4回 OECD国際教員調査を元に、教員の勤務環境について実践的に考察し、その改善に向けた方略を多面的に検討する。（小野瀬） 第5回 教師としての成長（現職院生）、現時点での資質能力の確認（学卒院生）の演習を行い、教職の意味の再確認を行う。（小野瀬・司城・瓦井） 第6回 D. ショーンによる「反省的実践家」という視点から教師の専門性についてとらえ直す。（司城） 第7回 教師の学びに関する研究論文について検討し、教師が実践や授業研究を通して学ぶ過程を明らかにする。（司城） 第8回 教師の学びに関する現代的課題を整理し、グループごとに探求したいテーマに沿って検討を行う。（司城） 第9回 グループごとの検討結果を報告し、実践からの学びの過程について全体討議を行う。（司城） 第10回 授業の内容と自分自身のこれまでの実践を関連させながら振り返り、教師の学びについて考察を行う。（司城・瓦井・小野瀬） 第11回 教員評価制度の概要（目標管理と業績評価）とその意義について、制度導入の経緯や背景、企業の評価制度や諸外国の制度などを対比しながら考察していく。（瓦井） 第12回 教員評価の実際について、現在利用されている教員評価制度の実例を基に自己目標の設定を試みる。（瓦井） 第13回 面談時の評価者と被評価者役をロールプレイしながら、教員評価が学校の教育活動や教員の職能発達、人事異動に及ぼす影響について考察していく。（瓦井） 第14回 教員評価が学校の諸活動全体の改善と教員の資質能力の向上とに資する具体的な方策を析出できる手段として位置づけられるか、併せて、教員評価の本義と指導不適切（不適格）教員排除との関連性を考察していく。（瓦井） 第15回 これまでを振り返って、自らの今後の教師の力量形成の在り方についてレポートをまとめ、小グループで意見交換をする。（小野瀬・司城・瓦井）</p>
<p>教科書・参考書等／Textbooks</p>	<p>（参考書） 小島弘道他編『教師の条件－授業と学校をつくる力－』学文社、2008。 アンディ・ハーグリー?ブズ著、秋田喜代美監訳、木村優・篠原岳司 翻訳『知識社会の学校と教師：不安定な時代における教育』金子書房、2015。 ドナルド・A・ショーン著、柳沢昌一・三輪建二監訳『省察的実践とは何か－プロフェッショナルの行為と思考－』鳳書房、2007。 秋田喜代美著『学びの心理学－授業をデザインする－（放送大学叢書）』左右社、2012。 佐藤全、若井彌一『教員の人事行政－日本と諸外国?』ぎょうせい、1992。 佐藤全、坂本孝徳編著『教員に求められる力量と評価（日本と諸外国）』東洋館出版、1996。</p>
<p>成績評価の方法／Evaluation</p>	<p>授業への参加態度、研究協議での発言等のパフォーマンスを総合的に判断して評価する。</p>
<p>学習上の助言／Learning Advice</p>	<p>受講者一人ひとりが、自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。</p>
<p>キーワード／Keywords</p>	<p>教員の専門性、専門職性、反省的実践家、教師の学び、教員評価制度</p>
<p>備考／Notes</p>	

授業科目名(英文名) /Course Title	集団づくり論/Theory to Build a Classroom		
代表教員(所属)/Instructor	近藤 秀人(教育学研究科 専門職学位課程)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402110
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 水/Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	児童・生徒の自己肯定感や自治の力を育む学校における様々な取組を集団づくりとして意識化し、その教育的意味と具体的な実践手法を学ぶことを目的とする。具体的には、教育実践史から紡ぎ出す集団づくり理論に触れるとともに、集団づくりにおける今日的課題を明らかにし、多様な実践事例を手がかりに授業を展開する。参加型の学びを基本にするため、授業参観・授業研究、ロールプレイ、シミュレーション等を通して実践的に学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	(学卒院生) 学級集団の現状と課題を学校改善の観点および現代社会との関わりから理解することができる。 学級における集団づくりの方法を身につけることができる。 学級の現状分析の方法を身に付けることができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	選択科目(学卒院生は必修)である。 主に学校改革力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	教育職員免許状取得の過程で手に入れた集団づくりに関する知識・技能を前提としている。		
関連科目/Related Courses	共通科目「学級経営の実践と課題」では、学級経営の内容、役割、実践上の課題の理解や、年間を通しての学級経営の計画等を学ぶ。本科目は、学級経営の中から「集団づくり」を取り上げ、その理論と方法の詳細を学ぶ。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義を聴くだけでなく、授業参観・授業研究・ロールプレイ・シミュレーション等を通して、実践的に学ぶ。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団づくりの授業計画を概観し、集団づくりにおける課題を顕在化させるために、集団づくりに関するウェビングを行う。 2. 集団づくりにおける課題を顕在化させるために、集団づくりに関するウェビングを行う。 3. 集団づくり理論の歴史的経緯と今日的課題について学ぶ。① 4. 集団づくり理論の歴史的経緯と今日的課題について学ぶ。② 5. 集団づくり理論の歴史的経緯と今日的課題について学ぶ。③ 6. 特別活動の理論と実践から、集団づくりについて考える。(発表・リーフレット作成) 7. 特別活動の理論と実践から、集団づくりについて考える。(リーフレット作成) 8. 小学校における特別活動の授業を参観する。 9. 参観した授業を手がかりにして授業討論会を行う。 10. 集団づくりの技法について学ぶ。①(ソーシャルスキルトレーニング、グループエンカウンター等々) 11. 集団づくりの技法について学ぶ。②(ソーシャルスキルトレーニング、グループエンカウンター等々) 12. 集団づくりの技法について学ぶ。③(ソーシャルスキルトレーニング、グループエンカウンター等々) 13. Q-Uテスト等を例に挙げ、評価内容と結果の分析方法を理解する。①(評価の特質と分析方法を含めた具体的な手法について学ぶ。) 14. Q-Uテスト等を例に挙げ、評価内容と結果の分析方法を理解する。②(分析結果を手がかりにして、集団づくりをどのように行うかを考える。) 15. 児童生徒及び教職員の集団づくりについて総括する。(組織マネジメント全般を視野に入れた総括を行う。) 		
教科書・参考書等/Textbooks	テキストは随時紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	毎時間のミニレポート等および授業への参加態度を総合的に判断する。		
学習上の助言/Learning Advice	学卒院生は必修科目です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	学校評価の開発実践		
代表教員(所属)/Instructor	小野瀬 善行(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402120
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 他 /0th.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	今日の学校における学校評価の意義、制度について理解を深め、自律的な学校運営や学校改善につながる学校評価のあり方について検討していく。併せて目標設定演習やSWOT分析など組織マネジメントの手法やデータ収集法を学ぶ。さらに様々な学校評価の事例を考察するとともに所属校の学校評価を事例として取り上げて分析することで、学校の実態に即した学校評価の望ましいあり方を探求し、最後に受講者各自が学校評価フォーマットを考察し発表する。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 学校評価の意義と必要性を自己評価、関係者評価、第三者評価のそれぞれについて理解する。学校改善につながる学校評価の方法を知り、それに必要なマネジメント手法、データ収集の方法を習得する。望ましい学校評価のあり方についての考えを持ち、具体的なフォーマットに現すことができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	選択科目のひとつであり、教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)の含まれる。具体的には、教育に関する社会的、制度的または経営的事項の学習を通して、高度専門職としての専門性向上を目標とする。		
前提とする知識/Prerequisites	共通科目の「学校改革の実際と課題」は総論にあたり、そこで学習する知識は、本科目の学習を進めるうえで前提と位置づけられる。		
関連科目/Related Courses	共通科目の「学校改革の実際と課題」は総論にあたり、本科目はその具体的展開の理論と技法を学ぶ。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業とワークショップ、事例研究を行い、これらから得た知見を活かして学校評価フォーマットを立案・発表する。プレゼンテーションでは受講者間で相互批評を行い、学校評価デザインの成果交流を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーション(各自の学校評価観について協議と課題の抽出) 第2回 学校評価制度導入の理論的背景と課題 第3回 文部科学省「学校評価ガイドライン」の変遷と学校評価の類型 第4回 自治体の学校評価システムの考察①(事例研究) 第5回 自治体の学校評価システムの考察②(事例研究) 第6回 所属校の学校自己評価分析①(事例研究) 第7回 所属校の学校自己評価分析②(事例研究) 第8回 所属校の学校自己評価分析③(事例研究) 第9回 学校評価のための技法①SWOT分析演習 第10回 学校評価のための技法②目標設定演習 第11回 教職員の人事評価と学校評価 第12回 学校関係者評価・第三者評価のねらいと実際 第13回 学校評価フォーマットの作成演習① 第14回 学校評価フォーマットの作成演習② 第15回 学校評価フォーマットのプレゼンテーション		
教科書・参考書等/Textbooks	文部科学省『学校評価ガイドライン〔平成22年改訂〕』2010年 福本みちよ編著『学校評価システムの展開に関する実証的研究』玉川大学出版部 2013年 天笠茂編『学校をエンパワーメントする評価』ぎょうせい 2012年 など		
成績評価の方法/Evaluation	事例研究のレポート、学校評価フォーマットの成果物、研究協議での発言などを総合的に判断して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	現職院生の選択科目に位置づくものである。教育評価は、これからの学校運営の充実のために欠くことができない取り組みである。教育評価について、これまでの経験や実践を踏まえ、理論との往還を図ってほしい。		
キーワード/Keywords	自律的 school 運営、評価		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	栃木の学校改革		
代表教員(所属)/Instructor	原田 浩司(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402130
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 変則通年集中/Intensive 他/0th.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	<p>栃木県の学校が置かれた多様な現状を多面的に理解し、全国的な学校改革との関連や特殊性・課題等を考察して、新たな学校改革の方向性を模索し、自分なりの展望を持てるようになることを目的とする。授業では、栃木県の学校現場ないし教育行政の経験者有する担当教員から講義を受ける。また、栃木県において教育の各分野をリードするゲスト講師も招聘することで、幅広い教育課題に対応する講義とする。各講義の後に、全員で討論を行い理解を深めていく。授業の最後に、現職教員は自校の学校改革プランを構想・立案し、発表と相互評価を行う。将来、創造的な学校改革を自ら構想・実践するための柔軟な発想力や思考枠組みの形成を目指す。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	<p>(現職院生) ミドル・リーダーとして、栃木の学校を取り巻く様々な環境や実態を理解し、現状を客観的に評価することを通して、勤務校の課題を抽出し、具体的な改革構想を提案することができる。さらに、市町や県への提案に結び付くような具体的なアイデアを発想できることが望ましい。</p> <p>(学卒院生) 将来のリーダーとして、栃木の学校の置かれた多様な現状を理解し、課題を整理して、現状の評価および将来の改革構想を描き出すことができる。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	<p>選択科目 主に学校改革力を育成する科目である。</p>		
前提とする知識/Prerequisites	<p>栃木県の教育に関する基礎知識</p>		
関連科目/Related Courses	<p>共通科目では、「学校改革の実際と課題」と関連があります。 選択科目の「学校評価の開発実践」と関連があります。</p>		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>毎回、テーマに沿って、栃木県の学校現場/教育行政の経験者である担当教員と、栃木県教育委員会/県内市町教育委員会の行政担当者が共同で講義を行った後、全員で討論を行っていく。最後に各自が構想する学校改革プランのプレゼンテーションを行い、相互評価を行う。</p> <p>。(共に学ぶ効果と手だて) 現職院生は、学校が抱える様々な課題やその解決法について豊富な経験知を持っている。本授業で栃木県の教育現場・行政経験者ならびに政策に携わる行政担当者から改めて講義を受けることによってそれらを相対化し、柔軟で新しい発想へとつなげていく。学卒院生は、経験知を客観化し再構築していく現職院生の学習プロセスから学びつつ、栃木の学校の未来について自分なりに考えていくことが可能になる。また現場経験者、政策担当者、受講生の三者によって展開される活発な討論の積み重ねによって栃木県の学校経営・教育実践を新たな地平に導く豊かなアイデアが数多く創出することも期待される。</p>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栃木の教育の特色①―「栃木県教育振興基本計画」から― (瓦井) 2. 栃木の教育の特色②―全国との比較を通して― (瓦井) 3. 栃木の教育施策の全体像―県と市町の関係に着目して― (瓦井) 4. 栃木の教育課程政策 (未定1) 5. 栃木の教育方法・少人数学級 (未定1) 6. 栃木の学力と学力向上策 (原田) 7. 栃木の特色ある教育 (原田) 8. 栃木の特別支援教育 (原田) 9. 栃木の学校間接続 (未定2) 10. 栃木県内の小中一貫教育 (未定2) 11. 栃木の学校―地域の連携 (未定2) 12. 栃木の人権教育・キャリア教育 (未定1) 13. 学校改革プラン立案: 演習 (原田・未定1・未定2・瓦井) 14. 学校改革プラン発表: プレゼンテーション (原田・未定1・未定2・瓦井) 15. 総括的討論 (原田・未定1・未定2・瓦井) 		
教科書・参考書等/Textbooks	<p>栃木県教育委員会『とちぎ教育振興ビジョン(三期計画)』2011年他</p>		
成績評価の方法/Evaluation	<p>討論への参加状況、プレゼンテーション等を総合的に判断して評価する。</p>		

学習上の助言／Learning Advice	学校改革に必要な実践力と専門性を磨いていきましょう。
キーワード／Keywords	栃木県の教育 教育改革
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	学校における「管理」実践とその課題		
代表教員(所属)/Instructor	瓦井 千尋(全学共通教職センター)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402150
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	瓦井 千尋(kawarai@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028(649)5271)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	瓦井 千尋(毎授業後(水)、教職センター室内において(10:30~11:00))		
授業の内容/Course Description	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の前半は、学校の管理運営の実状について説明や演習・協議を通して学ぶ。教材には、教職員の不祥事の事例を教育判例から取り上げ、その背景や要因を分析・検証したり、個人情報漏洩事案(例)を想定した保護者や報道機関等への対応の仕方などをシミュレーションしたりしながら、学校の危機管理の基本を明らかにしていく。 ・後半は、学校組織マネジメントの概論と手法について学び、具体的な学校経営ビジョンづくり(演習)を通して学校運営の改善策を追求していく。 		
授業の達成目標/Course Goals	<p>(現職院生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の危機管理におけるリスクマネジメントとクライシスマネジメントの重要性を認識することができる。具体的な教職員の不祥事や情報管理の判例を考察することで合意形成や組織としての対応、対外的な処理の仕方などを身に着けることができる。 ・学校組織マネジメントの知識・知見を活用し、学校経営ビジョンを策定するなど学校が抱える様々な課題に適切に対処し、業務・組織の見直し・改善や教員の育成ポイントを示唆する手がかりを得るなどミドルリーダーとして学校運営の改善に寄与することができる。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は「学校改革力」の育成をめざした現職院生対象の選択科目である。 		
前提とする知識/Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 		
関連科目/Related Courses	<ul style="list-style-type: none"> ・共通科目では、「学校改革の実践と課題」「現代教師論」と関連がある。 ・選択科目では、「学校評価の開発実践」と関連がある。 		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>(授業の方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概論の説明や法規演習後の解説などは主に講話形式ですすめていく。個人による判例調べや班別での事例研究、自校(又は連携校)での調査活動、学校経営のビジョンづくり並びに模擬記者会見といった演習の際には、班(個)別対応方式で指導助言に当たる。本授業は、アクティブ・ラーニングを考慮した事例研究、班別調査、ロールプレイング等を授業の中心活動とする。 (共に学ぶ効果と手だて) ・現職院生のみのため、授業の場面においては学卒院生と共に学び合う機会はないが、日々の相互交流の機会などを積極的に利用し、本授業の内容等を話題とした情報交換を相互に勧めていく。 ・なお、学卒院生が特に受講を希望する場合は、班編制などを工夫し、現職院生から助言等を得ながら学修できるよう環境作りに配慮していく。 		

<p>授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule</p>	<p>（学校の管理運営について）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに、授業全体の概要とねらい、進め方等を確認するとともに、受講者各自の本授業に対する期待やねらい等を確認する。導入として、わが国の学校教育の特徴や学校教育が抱える様々な課題等について、特に、学校の管理運営の観点を中心に、率直に意見を出し合い次時以降の下地とする。 2～3. 前時に出された見解などを踏まえながら、「適切な学校管理運営とは何か」、ということについて、戦前と戦後の教育に関する制度や事務を対比したり、地方自治と民主主義の理念を確認したりしていく。併せて、組織の構成員の果たすべき役割について、特に、ミドルリーダー的な教員等の役割について省察しながら検証・検討し合っていく。 4. 学校のステークホルダーである教育委員会（新制度も含め）、保護者・地域社会との関係は、学校の管理運営にどのような影響を及ぼしているのか、国の動向や各地域の現況を踏まえながら、その影響度合いを明らかにし、今後の望ましい関係づくりの方向性を見出していく。 5～6. 適切な学校の管理運営を図っていく上で、スクール・コンプライアンスの観点から、代表的な教育法規の基礎的知識を修得するとともに、教職員の不祥事や情報管理に係る判例等の事例をもとに演習を通して相互に検討・検証しながら、学校の管理運営に係る実際的な問題について考察していく。 7～8. 前時を受けて、リスクマネジメントとクライシスマネジメントに関連する事例を集め、ロールプレイング（模擬記者会見等）を取り入れながら、相互に検討・検証を行い、学校における平常時の危機管理と緊急時における危機管理の在り方を体験的に学んでいく。 <p>（学校の組織マネジメントについて）</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 学校経営をめぐる今日的な課題に対し、学校組織マネジメントの必要性及びその概要と手法について講義と演習を通して学んでいく。 10～11. 次に、SWOT分析により学校を取り巻く内外の環境を把握・分析し、自校（又は連携校）の特色ある学校づくりに向けた課題整理と実効策を検討する。続いて、自校（又は連携校）の役割とミッションを探索する。なお、以上の内容については、自校（又は連携校）に出向き、当該校の担当職員と連絡調整をしながら進めるものとする。 12～13. 前時を受けて、自校の具体的な学校経営ビジョンを策定する。併せて、それらを確実に展開するためのコミュニケーションスキルや人材育成の手法、校務分掌の見直しの視点などを検討・検証し合う。 14. 前時まで作成したそれぞれの学校経営のビジョンについて、グループごとに発表し合い、相互に成果を学び合う。発表した内容については、それぞれの学校のビジョン策定に役立てていただくよう後日、当該校に提供する。 15. これまでの授業全体を振り返って、自分の中に「適切な学校の管理運営について」のイメージが構築できたか、併せて、そのイメージに沿った学校運営が出来るようにするために、自校（又は連携校）が抱える様々な教育課題の一つに対応できるような方策等を見出すことができたかどうか、さらには、自分が当該校の学校運営の中核（ミドルリーダー）となって活躍できる存在となるためにはどういったことを身に着ける必要があるか、等をレポートにまとめる。また、授業構成や授業の展開方法、テーマの取り上げ方などについて率直な意見を述べてもらい、次回の授業改善に役立てる。
<p>教科書・参考書等／Textbooks</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 栃木県教育関係職員必携28（栃木県教育委員会編第一法規） 2) 第五次全訂新学校管理読本（学校管理運営法令研究会編著第一法規） 3) 教職員服務関係実務ハンドブック（教職員法令研究会編ぎょうせい） 4) 判例Q & A 教職員の法知識1～3（教育判例研究会編ぎょうせい） 5) 人事判定による教職員法律問題質疑応答集1～2（教育判例研究会編ぎょうせい） 6) 最新学校管理規則質疑応答集（教育法規研究会編ぎょうせい） 7) ザ☆特集No. 37〈管理職演習〉学校防災・危機管理の最新法律問題（菱村幸彦編教育開発研究所） 8) DVDスクールコンプライアンス第1～3巻日本経済新聞出版社 など 9) 教員の資質能力の向上に関する各種答申等 10) 「組織マネジメント研修テキスト」（独法：教員研修センター「教職員等中央研修講座」配付資料）ほか
<p>成績評価の方法／Evaluation</p>	<p>・毎時の授業記録の提出物・研究協議後の省察レポート、演習及び研究協議での発言・発表等のパフォーマンスを総合的に判断して評価する。</p>
<p>学習上の助言／Learning Advice</p>	<p>・演習で扱う題材事例については、批評家的・評論家的な姿勢で取り組むのではなく、「明日は我が身」という緊迫感や切実感、やり甲斐感を持って、より良いミドルリーダーを目指し主体的に取り組んで欲しい。</p>
<p>キーワード／Keywords</p>	<p>・学校の組織マネジメント、学校の自律性、ミドルリーダー、学校の危機管理、スクール・コンプライアンス、リスク・マネジメント、クライシスマネジメント</p>
<p>備考／Notes</p>	

授業科目名(英文名) /Course Title	授業実践基礎/Basic Learning for Teaching Practice		
代表教員(所属)/Instructor	人見 久城(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402210
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 水/Wed 1, 水/Wed 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	人見 久城(hitomi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	人見 久城(月 13:00~14:20)		
授業の内容/Course Description	授業参観の視点を整理した上で、附属学校で授業参観をする。授業者および大学教員と共に、授業参観の気づきを交流や授業改善のための協議を行う。教科を選択し、専門の教員の指導の下、指導案の作成と模擬授業を行う。更に、現職教員の講話を聴くことで、自らの教師としての使命感・情熱及び学習指導、生徒指導への思いや工夫等を整理する。		
授業の達成目標/Course Goals	(学卒院生) 授業参観から、授業観察の視点を身に付けることができる。 授業研究会の参加を通して、授業改善の方法を理解する。 指導案作成と模擬授業を通して、授業を構成する力を身に付ける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	選択科目(学卒院生は必修)である。 主に、授業力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	共通科目「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」では、確かな学力・創造的な学力を保障する教材開発と教育方法や授業研究の方法を学ぶ。「学級経営の実践と課題」では、児童生徒との人間関係構築のための学級経営の方法について学ぶ。		
関連科目/Related Courses	共通科目「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」では、確かな学力・創造的な学力を保障する教材開発と教育方法や授業研究の方法を学ぶ。「学級経営の実践と課題」では、児童生徒との人間関係構築のための学級経営の方法について学ぶ。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	複数教員によるオムニバスおよび共同方式で進める。高度な実践力を身に付けるために、小中学校の授業への直接参観、授業研究会での議論、指導案作成と模擬授業を繰り返す。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1, オリエンテーション 授業についての見通しをもたせ、自分の今もっている教師像や育てたい子ども像を整理、確認する。(人見) 2, 授業参観の視点 参観にふさわしい意欲や態度を養うと共に、授業参観の視点を持てるようにする。また、授業検討会の意義と方法について理解する。(松本) 3~5, 附属小学校での授業参観および研究協議 実際の授業を見ることを通して授業参観の視点を養うと共に、授業研究会に参加することで、授業改善の力を身につける。(平塚、青柳、日野) 6~8, 附属中学校での授業参観および研究協議 実際の授業を見ることを通して授業参観の視点を養うと共に、授業研究会に参加することで、授業改善の力を身につける。(鈴木、久保田、渡辺) 9~11, 指導案の作成および模擬授業1 国語、算数・数学、理科、社会、英語の中から教科を1つ選び、担当教員の指導の下、指導案の作成と模擬授業を行う。(青柳、久保田、松本、人見、日野、渡辺) 12~14, 指導案の作成および模擬授業2 算数・数学、理科、社会、英語、道徳の中から、前回と異なる教科を1つ選び、担当教員の指導の下、指導案の作成と模擬授業を行う。(青柳、久保田、松本、人見、日野、渡辺) 15, まとめ 現職教員から教師としての使命感・情熱及び学習指導、生徒指導への思いや工夫等について講演を聴き、現在の自分を振り返る。(全員)		
教科書・参考書等/Textbooks	テキストは当日紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	毎時間のミニレポート、指導案、授業への参加態度等を総合的に判断する。		
学習上の助言/Learning Advice	学卒院生は必修の科目です。		
キーワード/Keywords	学習指導案、模擬授業		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	学習科学と協調学習		
代表教員(所属)/Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402215
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	<p>学習科学の視点から、より深い学びを学習者に提供する方法を検討する。学習科学とは、人の学びを個人的なものだけでなく、協調的なものとして捉え、学習を改善しながら理論を構築しようとする考えである。学習科学の基盤となる認知科学の知見、授業デザインの知見等を、過去の経験や知識をもとに、仲間と協働しながら理解する。また、実践研究の手法としてのデザイン研究(実験)の方法を検討します。更に、テクノロジーが学びをどのように支援するのかを検討し、テクノロジー(ICT)を活用した授業改善の方略を探究する。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	<p>(現職院生) 過去の経験や知識をもとに、仲間と協働しながら、人の学びのプロセスを理解できる。上記の理解をもとに、学校教育における授業改善の方法を検討できる。 また、テクノロジーによる学びの支援を実践現場に即して検討し、指導計画を作成することができる。</p> <p>(学卒院生) 過去の経験や知識をもとに、仲間と協働しながら、人の学びのプロセスを理解できる。テクノロジーによる学びの支援を検討し、指導計画を作成することができる。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	<p>選択科目 主に、授業力を育てることをねらいとする科目である。</p>		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	<p>共通科目では、「カリキュラム開発の実践と課題」「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」と関連がある。 選択科目では、「各教科デザイン論」と関連する。</p>		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>(授業の方法) 学習科学に関連する理論の学習は、ジグソー学習によるアクティブラーニングで行う。また、テクノロジーの体験をもとに指導計画の作成や模擬授業を演習形式で行う。グループ活動が中心となるが、現職院生と学卒院生の混合班を基本とする。</p> <p>(共に学ぶ効果と手だて) 現職院生は授業における指導と学習者の学びに関する既有概念を持っている。学卒院生は、自己の学習体験における既有概念を持っている。これらの異動を検討することを通して、学びの本質を深く理解することができる。 デジタルネイティブに近い学卒院生は、ICT技術やその操作に秀でている。一方で、現職院生は現実の環境を想定した授業デザインをすることができる。これらの長を生かすことで、より深い学びを提供するための指導計画を作成できる。</p>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>1. 学習とは何か? ・学習科学とその関連領域を理解する ・構成主義学習観を検討すると共に、アクティブ・ラーニングの言説を整理する。 ・デジタルポートフォリオの方法を理解する。 2~3, 思考の外化とリフレクション ・概念地図や運勢ライン法を体験し外化と振り返りの往還とその学びを検討する。 4, 真正な学習と学習意欲 ・ケースメソッド教材から真正な学習および学習意欲を検討する。 5~6, 協調学習の基本構造 ・学びの共同体を成立させる要件を検討する。 ・GoogleAppsを使い、基本構造を生かした授業デザインを検討する。 7~8, ジグソー学習 ・知識構成型ジグソー学習の体験を通し、その学習デザインを検討する。 9~10, 協調学習と個の学び ・CSCL(XingBoard)の体験を通し、集散型学習を理解すると共に学習デザインを検討する。 11~12, 学習とゲーミフィケーション ・学習とゲーミフィケーションの関連を理解する。 ・学習ゲームの作成を通して、その意義を理解する。 13. 授業観と教材 ・ワークシートを協働で作成することで、授業観やねらいの差異を理解する。 14~15, 評価による学び ・真正な評価と子供の作品の見取りを通して、評価の在り方を検討する。 ・デジタルポートフォリオシステムを利用し、本授業を振り返ると共に、相互評価の意義を検討する。</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	<p>・三宅なほみ・白水始(2003) 学習科学とテクノロジー, 日本放送出版協会 ・稲垣佳世子・波多野誼余夫(1989) 人はいかに学ぶか-日常的認知の世界-, 中公新書</p>		

成績評価の方法／Evaluation	授業記録の提出物・研究協議後の省察レポート、研究協議での発言等のパフォーマンスを総合的に判断して評価する。
学習上の助言／Learning Advice	テクノロジー（ICT）を前提として科目ではありません。学びとは何かを学習科学の視点から理解することが前提です。その上で、その理論を具現化するツールの一つとしてテクノロジー（ICT）を使います。また、IT活用のスキルは関係ありません。
キーワード／Keywords	授業力, 学習改善, 学習科学, ICT
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	授業改善とテクノロジー/Improvement of Teaching and Technology		
代表教員(所属)/Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402220
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	学習科学の視点から、より深い学びを学習者に提供する方法を検討する。学習科学とは、人の学びを個人的なものだけでなく、協調的なものとして捉え、学習を改善しながら理論を構築しようとする考えである。学習科学の基盤となる認知科学の知見、授業デザインの知見等を、過去の経験や知識をもとに、仲間と協働しながら理解する。また、実践研究の手法としてのデザイン研究(実験)の方法を検討します。更に、テクノロジーが学びをどのように支援するのかを検討し、テクノロジー(ICT)を活用した授業改善の方略を探究する。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 過去の経験や知識をもとに、仲間と協働しながら、人の学びのプロセスを理解できる。上記の理解をもとに、学校教育における授業改善の方法を検討できる。 ICTによる学びの支援を実践現場に即して検討し、ICTを利用した指導計画を作成することができる。 (学卒院生) 過去の経験や知識をもとに、仲間と協働しながら、人の学びのプロセスを理解できる。ICTによる学びの支援を検討し、指導計画を作成することができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	選択科目 主に、授業力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「カリキュラム開発の実践と課題」「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」と関連がある。 選択科目では、「各教科デザイン論」と関連する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) 学習科学に関連する理論の学習は、ジグソー学習によるアクティブラーニングで行う。また、テクノロジーの体験をもとに指導計画の作成や模擬授業を演習形式で行う。グループ活動が中心となるが、現職院生と学卒院生の混合班を基本とする。 (共に学ぶ効果と手だて) 現職院生は授業における指導と学習者の学びに関する既存概念を持っている。学卒院生は、自己の学習体験における既存概念を持っている。これらの異動を検討することを通して、学びの本質を深く理解することができる。 デジタルネイティブに近い学卒院生は、ICT技術やその操作に秀でている。一方で、現職院生は現実の環境を想定した授業デザインをすることができる。これらの特長を生かすことで、より深い学びを提供するための指導計画を作成できる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. オリエンテーション 学習科学の概要を知る。 2. 学ぶとは何か? アクティブ・ラーニングとは何か? 学習者の学びとアクティブ・ラーニングの関係を整理する。 3~8. キー概念を演習から学ぶ ・概念地図や運勢ライン法を体験し外化による学びを検討する。 ・ケースメソッド教材から真正な学習および学習意欲を検討する。 ・ポートフォリオの見取りから真正な評価を検討する。 ・ワークシートの製作から能動的な学習支援について検討する。 ・ジグソー学習等の体験から協調学習の方法と成立条件を検討する。 9. 授業改善とテクノロジー 国内の実践事例を参考に、テクノロジーを活用した授業改善の方法を整理する。 10~13. 協調学習支援システムの体験 既に小中学校で活用されている複数のシステムを体験する。この活動を通して、各システムの特徴を考察し、教育実践での利用法を検討する。 14. テクノロジーを利用した授業デザイン 前時に体験したシステムの一つを選び、それらを活用した授業デザインを検討する。指導案を作成するだけでなく、グループ内で模擬授業等を行う。 15. まとめ 模擬授業の成果を発表する。また、科目全体を振り返り、今後の長期インターンシップおよび教育実践プロジェクト等に生かす方法を検討する。		
教科書・参考書等/Textbooks	・ 三宅なほみ・白水始(2003) 学習科学とテクノロジー, 日本放送出版協会 ・ 稲垣佳世子・波多野諄余夫(1989) 人はいかに学ぶか-日常的認知の世界-, 中公新書		
成績評価の方法/Evaluation	授業記録の提出物・研究協議後の省察レポート、研究協議での発言等のパフォーマンスを総合的に判断して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	テクノロジー(ICT)を前提として科目ではありません。学びとは何かを学習科学の視点から理解することが前提です。その上で、その理論を具現化するツールの一つとしてテクノロジー(ICT)を使います。また、IT活用のスキルは関係ありません。		
キーワード/Keywords	授業力, 学習改善, 学習科学, ICT		

授業科目名(英文名) /Course Title	言語活動を軸にした教育内容・方法論/Educational Contents and Methodology Centered on the Language Practice		
代表教員(所属)/Instructor	青柳 宏(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402230
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 他 /Oth.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	特に人文系の科目において(また、「総合的な学習の時間」、「道徳」等において)、「言語活動の充実」をどのように理解し、構想し、実践、省察するののかについて事例分析を中心に検討を行う。教科の枠にとらわれず、「詩を書くこと」、「対話すること」、「物語ること」をキーワードに、様々な実践事例を検討する。また、授業の中で、実際に「詩を書くこと」、「対話すること」、「物語ること」に関わる実践(模擬授業)を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 自らの現場での言語活動を軸にした実践を省察し、どのような点に課題があるのかを理解した上で新たな実践を構想していく技能を習得する。 (学卒院生) 「言語活動」の中核をなす「対話」の意義について理解し、様々な教育内容に関わる対話的実践を構想できるようにする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	三つの力の内、特に「授業力」、また「学校改革力」に資する。		
前提とする知識/Prerequisites	学部段階での「教育方法論」等で習得される知識を前提とする。		
関連科目/Related Courses	共通科目では「カリキュラム開発の実践と課題」と関連があります。 選択科目では「授業実践基礎論」「道徳授業デザイン論」と関連があります。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	まずテキスト(鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』他)に描かれたいくつかの実践についてグループに分かれて検討を繰り返した後、それぞれのグループごとに実践を構想し模擬授業を(全体に対して)おこなう。そして、模擬授業についての省察を全体で行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト(鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』)の検討(その一)*グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 2. テキスト(鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』)の検討(その二)*グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 3. テキスト(鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』)の検討(その三)*グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 4. テキスト(谷川俊太郎他『ことばが生きている子どもが生きている詩の授業』)の検討(その四)*グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 5. テキスト(谷川俊太郎他『ことばが生きている子どもが生きている詩の授業』)の検討(その五)*グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 6. テキスト(坂本忠芳他『フレネ教育:表現する教室』)の検討(その六)*グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 7. テキスト(坂本忠芳他『フレネ教育:表現する教室』)の検討(その七)*グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 8. 模擬授業(「対話すること」をキーワードにした模擬授業)(その一)*第1グループによる模擬授業と全体での検討(省察) 9. 模擬授業(「対話すること」をキーワードにした模擬授業)(その二)*第2グループによる模擬授業と全体での検討(省察) 10. 模擬授業(「対話すること」をキーワードにした模擬授業)(その三)*第3グループによる模擬授業と全体での検討(省察) 11. 模擬授業(「対話すること」をキーワードにした模擬授業)(その四)*第4グループによる模擬授業と全体での検討(省察) 12. 模擬授業(「詩を書くこと」をキーワードにした模擬授業)(その五)*第5グループによる模擬授業と全体での検討(省察) 13. 模擬授業(「詩を書くこと」をキーワードにした模擬授業)(その六)*第6グループによる模擬授業と全体での検討(省察) 14. 模擬授業(「詩を書くこと」をキーワードにした模擬授業)(その七)*第7グループによる模擬授業と全体での検討(省察) 15. 授業のまとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』山吹書店、2005年 谷川俊太郎他『ことばが生きている子どもが生きている詩の授業』国土社、1989年 坂本忠芳他『フレネ教育:表現する教室』青木書店、2000年		
成績評価の方法/Evaluation	討論中の発言、模擬授業及び検討会でのパフォーマンス・発言を総合的に判断して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	例えば「詩を書くこと」を、文学的な表現としてだけでなく、物事を認識するためのツール(道具)として新たに捉え直して欲しい。		

キーワード/Keywords	
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	国語授業デザイン論		
代表教員(所属)/Instructor	近藤 秀人(教育学研究科 専門職学位課程)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402240
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	授業実践史上、代表的な国語科授業実践をもとに国語教育研究の到達点と改革課題を明確にし、国語科授業の果たすべき役割等について受講生と共に考察・討議を行う。そのうえで国語科授業の可能性と方向性を展望し、国語科授業をデザインする手法を多角的・体験的に理解する。		
授業の達成目標/Course Goals	<p>(学卒院生)</p> <p>授業観察を行うための視点を獲得し、立体的に授業実践を分析することができる。現代的な課題をふまえた国語科授業を構想し、実践する際に必要とされる知識・技能を身につけることができる。</p> <p>演習形式での考察・討議によって、授業をデザインし、省察に基づく授業改善を行うことができる。</p> <p>(現職院生)</p> <p>国語教育研究における歴史的遺産を基盤にし、国語教育の今日的な課題をとらえることができる。</p> <p>国語科授業実践を省察的思考により分析し、新たな視点で授業実践をデザインすることができる。</p> <p>国語教育を俯瞰する広い視野を身につけ、他の教員を指導できる実践力やマネジメント能力等を養うことができる。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	選択科目である。 主に授業力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	教育職員免許状を取得する過程で手に入れた授業をデザインする知識・技能を前提としている。		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「授業研究の運営と課題」「教材開発と教育方法の実践と課題」と関連がある。 選択科目では、「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>(授業の方法)</p> <p>演習形式を基本とし、必要に応じて講義を行う。代表的な授業実践の分析・検討を行うことによって、授業をデザインするために必要な視点を手に入れ、相手意識・目的意識を明確にした授業実践を構想していく。さらに、実践構想発表や模擬授業を行うことによって、より実践的な力量を身につけると共に、省察に基づく授業改善の手法についても議論していく。形態としては、ワークショップ、グループワーク等、目的に応じた学習形態を導入していく。学卒院生と現職院生、それぞれの強みが活かされるような集団構成の工夫を図る。</p> <p>(共に学ぶ効果と手だて)</p> <p>現職院生は、学校現場の具体的な実践に立脚し、子どもの事実を基にした討議を行うことが予想されるため、学卒院生に対して観念的・思弁的な視点ではなく、実践的な視点を提示することができる。それに対して、学卒院生は現場経験ととらわれることなく、自由な視点で討議することが予想されるため、方法論に埋没しがちな現職院生に対して理論と実践との往還の視点を提供することが期待できる。したがって、できるだけ相互環流的な意見交換や合意形成をせざるを得ないような集団構成で学ぶこととする。</p>		

<p>授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule</p>	<p>第1回：オリエンテーション *授業の目的や授業の進め方について説明を行う。学習指導要領の変遷や民間教育団体における多彩な実践事例等を手がかりにして、国語科授業の歴史的経緯の概要を紹介し、第3回以降の演習につなげる。</p> <p>第2回：国語科授業実践の遺産に学ぶ *学習指導要領の変遷や民間教育団体における多彩な実践事例等を手がかりにして、国語科授業の歴史的経緯の概要を紹介し、第3回以降の演習につなげる。</p> <p>第3回：国語科授業を分析する① *受講生自らが、現在の国語科授業に大きな影響を及ぼしていると考えられる代表的授業実践例を複数選択し、その実践を批判的に読み解き、成果と課題についてレポートをする。それを手がかりに集団討議を行う。</p> <p>第4回：国語科授業の分析する② *受講生自らが、現在の国語科授業に大きな影響を及ぼしていると考えられる代表的授業実践例を複数選択し、その実践を批判的に読み解き、成果と課題についてレポートをする。それを手がかりに集団討議を行う。</p> <p>第5回：国語科授業を分析する③ *受講生自らが、現在の国語科授業に大きな影響を及ぼしていると考えられる代表的授業実践例を複数選択し、その実践を批判的に読み解き、成果と課題についてレポートをする。それを手がかりに集団討議を行う。</p> <p>第6回：国語科授業ビデオを視聴する① *国語科授業ビデオを視聴し、模擬授業研究会を行う。授業改善の提案に力点を置く。模造紙と付箋紙を使用し、民主的な討議の手法についても検討する。</p> <p>第7回：国語科授業ビデオを視聴する② *国語科授業ビデオを視聴し、模擬授業研究会を行う。授業改善の提案に力点を置く。模造紙と付箋紙を使用し、民主的な討議の手法についても検討する。</p> <p>第8回：国語科授業をデザインするために *第3回から第7回の授業分析及び模擬授業研究会を基に、国語科授業を構想するための留意点をワークショップ形式で整理する。そしてそれを第9回以降の授業デザインの重要な視点とする。</p> <p>第9回：国語科授業をデザインする① *学習指導要領をてがかりにして、「言語活動をとおして、指導事項を指導する」という原則の下、教材開発も含めた国語科授業をデザインする。（個人で構想する。グループで構想する。グループ討議を行う。）</p> <p>第10回：国語科授業をデザインする② *学習指導要領をてがかりにして、「言語活動をとおして、指導事項を指導する」という原則の下、教材開発も含めた国語科授業をデザインする。（個人で構想する。グループで構想する。グループ討議を行う。）</p> <p>第11回：授業発表及び模擬授業を行う① *第9回・第10回で構想した授業実践の発表を行う。部分的に模擬授業形式で発表してもよいこととする。発表後は、全員で討議を行う。単なる批評ではなく、課題のある箇所について代替案を示すことに力点を置く。</p> <p>第12回：授業発表及び模擬授業を行う② *第9回・第10回で構想した授業実践の発表を行う。部分的に模擬授業形式で発表してもよいこととする。発表後は、全員で討議を行う。単なる批評ではなく、課題のある箇所について代替案を示すことに力点を置く。</p> <p>第13回：国語科授業の今日的な課題について整理する① *国語教育における今日的な課題（「PISA型読解力の向上」「言語活動の充実」「クリティカルリーディング」等々）をテーマにして、ワークショップ形式で授業にどのように位置づけるかの議論を行う。</p> <p>第14回：国語科授業の今日的な課題について整理する② *国語教育における今日的な課題（「PISA型読解力の向上」「言語活動の充実」「クリティカルリーディング」等々）をテーマにして、ワークショップ形式で授業にどのように位置づけるかの議論を行う。</p> <p>第15回：総括 *全体をふりかえり、国語科授業で保障すべき力は何か、国語科授業において学びの必然性をどのようにして確保していくか等を議論し、最終レポートにまとめる。</p>
<p>教科書・参考書等／Textbooks</p>	<p>*田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典第四版』（教育出版、2009年。） *その他、テキストは適時指示をする。</p>
<p>成績評価の方法／Evaluation</p>	<p>・各授業での評価（振り返りワークシート）、発表内容・方法、討議内容、最終レポート</p>
<p>学習上の助言／Learning Advice</p>	<p>具体的な実践場面を詳細にイメージして、子どもの事実即して、具体的に議論することを重視したい。</p>
<p>キーワード／Keywords</p>	
<p>備考／Notes</p>	

授業科目名(英文名) /Course Title	算数・数学授業デザイン論		
代表教員(所属)/Instructor	日野 圭子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402250
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	算数・数学授業のデザインにおいて求められる諸側面を整理するとともに、それらの側面から算数・数学授業を分析する。更に、授業の観察、分析、改善の作業を通して、質の高い授業をデザインするための実践のあり方を検討する。優れた授業の考察から得られる知見、そのような授業をデザインする上での視点や方法を、ワークショップ、グループワーク等を取り入れ、教材、教師、児童生徒の側面から考察する。		
授業の達成目標/Course Goals	(学卒院生) 算数・数学授業を計画、実施する上で必要とされる教師の知識・技能を身につける。集団での作業・討議によって、授業をデザイン、改善することができる。 (現職院生) 自分の授業実践について、算数・数学教育の今日的視点から、教材の開発や指導方法を振り返る。集団での作業・討議を通して、中核教員として授業研究を進めるリーダーシップを養う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	選択科目である。 主に授業力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	共通科目では、「授業研究の運営と課題」「教材開発と教育方法の実践と課題」と関連がある。 選択科目では、「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「授業研究の運営と課題」「教材開発と教育方法の実践と課題」と関連がある。 選択科目では、「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) 座学による講義だけでなく、事例を挙げながら、授業の分析を行い、更に、作業・討議を通して、授業を改善していく。形態としては、ワークショップ、グループワーク、実験授業の形態を組み合わせ、発表や質疑の機会を十分取り入れて授業を展開していく。 (共に学ぶ効果と手だて) 学卒院生と現職院生が共に授業に参加し活動をする中で、学卒院生は、具体的な授業の手立てや背景にある熟練教師の考え等を学ぶことができ、また、現職院生も新鮮な考えに触れて自らの実践を振り返ることが出来る。このような共に学ぶ効果が出るよう、グループメンバー構成や討議・検討会の進め方に工夫を図る。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回:オリエンテーション(算数・数学科における授業研究) 第2回:海外での数学の授業 第3回:国際比較からみた日本の数学科授業 第4回:問題解決を通しての数学の指導(特徴とルーツ) 第5回:問題解決を通しての数学の指導(教材研究とオープンアプローチ) 第6回:問題解決を通しての数学の指導(多様な解法の扱い) 第7回:グループ別討議(授業ビデオの視聴、授業分析) 第8回:グループ別討議(授業ビデオの視聴、授業分析) 第9回:数学の授業デザインの視点(協働的な練り上げについて) 第10回:数学の授業デザインの視点(子どもの考えに対する教師の対応) 第11回:グループ別討議(授業データに基づく分析) 第12回:グループ別討議(授業データに基づく分析) 第13回:グループ別討議(分析・改善) 第14回:グループ別討議(分析・改善) 第15回:まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	古藤恰他.『コミュニケーションで創る新しい算数学習:多様な考えの生かし方まとめ方』東洋館.1998. 島田茂編著.『算数・数学科のオープンエンドアプローチ』東洋館.1995. 清水美恵(編著).『授業を科学する:数学の授業への新しいアプローチ』学文社.2010. 永田潤一郎.『数学的活動をつくる』東洋館出版社.2012. 他		
成績評価の方法/Evaluation	・各授業での評価(振り返りワークシート) ・発表内容,方法,討議内容 ・最終レポート		
学習上の助言/Learning Advice	多角的に、算数・数学授業について振り返っていただきたいです。		

キーワード/Keywords	
備考/Notes	

授業科目名(英文名) / Course Title	社会科授業デザイン論		
代表教員(所属)/Instructor	松本 敏(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402260
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松本 敏(satoshim@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松本 敏(月曜日12時~12時30分, 火曜日10時30分~12時30分)		
授業の内容/Course Description	小学校社会科(院生の状況によっては中学校社会科, 高等学校地理歴史科, 公民科も含む)の授業において、思考力・判断力・表現力を育成する社会科の授業をいかに組み立てれば良いか。初めに総論的な講義を行い、これまでの実践史から典型的な実践例を検討して、授業デザインの在り方を考える。その後は授業の具体例を持ち寄って議論する。現職院生を中心に自らが行った社会科授業の指導案、授業記録、授業ビデオなどを提供して検討する。小学校を中心とした科目であるが連続性を踏まえ中学校の内容にも触れる。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 自らのこれまでの社会科授業の実践をまとめ、省察し、他の授業デザインと比較して論ずることができる。 思考力・判断力・表現力を高める社会科の授業デザインを具体的に構想できる。 (学卒院生) 社会科における思考力・判断力・表現力の育成方策について、基本的な理論が分かる。 思考力・判断力・表現力を育成する授業を組み立てることができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	授業力に関わる選択科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	社会科, 公民科, 地理歴史科の授業を行ったことがあること。		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「カリキュラム開発の実践と課題」「教材開発と教育方法の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業基礎論」「授業改善とテクノロジー」と関連します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) 最初の5回は、議論を含む講義中心で行う。具体的な授業プランや実践例を基に考察する。 6回目以降は、受講生の実践した社会科授業とその改善策について、討論を中心に行う。 (共に学ぶ効果と手だて) 現職院生は授業を数多く経験しているのに対し、学卒院生は学部での教育実習など限定的なものしか経験していない。このような差のある集団で、社会科の実際の授業を取り上げ、それに基づいて議論を行う。 学卒院生は学部段階で受けた初等ないし中等の社会科教育法の授業を振り返り、現職院生が経験に基づいて自らの授業を説明するのを聞いて、自分の知識と経験が当てはまることを教員の指示に応じて確認する。その上で、現実の授業の多様性に気づき、言語化できるようになる。 現職院生は、学卒院生に当初範を示すだけに見えるかもしれないが、自らの実践を学卒院生にも分かるように説明できなければならないので、自らの授業をより深く考察することになる。多くの実践が出されることにより、異なる視点や考え方から自らの実践について省察的に学び直す。これは、現場に戻ったときに、他の授業をデザインするときや若手を指導するときに役立つ。		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の趣旨、進め方について説明する。日本における社会科授業論の歴史（1）戦前の社会科的諸教科の内容と教育方法について、国定教科書や教師用書を学生と具体的に吟味・議論しながら講義する。 2. 社会科授業論の歴史（2）戦後初期社会科の内容と教育方法について、初期の学習指導要領や各地のプランを学生と具体的に吟味・議論しながら講義する。 3. 社会科授業論の歴史（3）1960年代の様々な社会科論について、発見学習、検証学習などの具体例を学生と吟味・議論しながら講義する。 4. 社会科授業論の歴史（4）平成期に入ってから社会科の授業について個別化・個性化、討論（話し合い）学習などの具体例を学生と吟味・議論しながら講義する。 5. 社会科授業論の歴史（5）思考力・判断力・表現力の育成が特に求められる現代の社会科授業について、典型例をいくつか示しながら、特に社会科で育成すべき力について、学生と議論しながら講義する。 6. 現職院生の授業発表（1）実践例を提示する（指導計画、授業記録、ビデオや録音、児童・生徒のワークシートなど）。思考力・判断力・表現力の育成のために意識して行ったところを中心に、発表する。学卒院生には、次時の議論に必要な基本事項の確認をする（分からない場合は宿題とする）。 7. 現職院生の授業発表（1）に対する議論 前時の発表についてそれぞれが考えてきたことを持ち寄り（レジュメ用意）、その授業の特色について討論する。学卒院生には、最初に基本事項の確認をして、議論に加わらせる。 8. 現職院生の授業発表（2）実践例を提示する（指導計画、授業記録、ビデオや録音、児童・生徒のワークシートなど）。思考力・判断力・表現力の育成のために意識して行ったところを中心に、発表する。学卒院生には、次時の議論に必要な基本事項の確認をする（分からない場合は宿題とする）。 9. 現職院生の授業発表（2）に対する議論 前時の発表についてそれぞれが考えてきたことを持ち寄り（レジュメ用意）、その授業の特色について討論する。学卒院生には、最初に基本事項の確認をして、議論に加わらせる。 10. 現職院生の授業発表（3）実践例を提示する（指導計画、授業記録、ビデオや録音、児童・生徒のワークシートなど）。思考力・判断力・表現力の育成のために意識して行ったところを中心に、発表する。学卒院生には、次時の議論に必要な基本事項の確認をする（分からない場合は宿題とする）。 11. 現職院生の授業発表（3）に対する議論 前時の発表についてそれぞれが考えてきたことを持ち寄り（レジュメ用意）、その授業の特色について討論する。学卒院生には、最初に基本事項の確認をして、議論に加わらせる。 12. 学卒院生の授業構想（1）これまでの学習を踏まえ、学卒院生が、思考力・判断力・表現力を育成する授業の構想を発表する。これについて、全体で議論し、生かしたい点や改善すべき点について、発表者がまとめる。 13. 学卒院生の授業構想（2）これまでの学習を踏まえ、学卒院生が、思考力・判断力・表現力を育成する授業の構想を発表する。これについて、全体で議論し、生かしたい点や改善すべき点について、発表者がまとめる。 14. 学卒院生の授業構想（3）これまでの学習を踏まえ、学卒院生が、思考力・判断力・表現力を育成する授業の構想を発表する。これについて、全体で議論し、生かしたい点や改善すべき点について、発表者がまとめる。 15. 全体を振り返り、社会科で育成すべき思考力・判断力・表現力の内容と、効果的に育成するための授業デザインの在り方について議論し、最終レポートにまとめる。
教科書・参考書等 /Textbooks	日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』ぎょうせい、2012年。 小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 小学校編』明治図書、2009年。 小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 中学校編』明治図書、2009年。 ほかにプリントを適宜配布する。
成績評価の方法 /Evaluation	授業記録の提出物・研究協議後の省察レポート、研究協議での発言等のパフォーマンス、最終レポートを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 /Learning Advice	単元、教材に即して、具体的に論じることが重要です。
キーワード /Keywords	社会科、公民科、地理歴史科、教育内容、教育方法、思考力・判断力・表現力
備考 /Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	理科授業デザイン論		
代表教員(所属)/Instructor	人見 久城(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402270
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	人見 久城(hitomi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	人見 久城(月 13:00~14:20)		
授業の内容/Course Description	理科教育の基礎理論を理解し、学習内容の分析や、教材研究、学習指導案作成、模擬授業をおこない、理科授業を立案して展開する方法を体験的に学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	理科教育の基礎理論の概要を理解することができる。 理科の学習内容分析、教材研究の方法を身に付ける。 学習指導案作成と模擬授業を通して、授業を立案して展開する力を身に付ける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	選択科目である。 主に、授業力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	共通科目「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」では、確かな学力・創造的な学力を保障する教材開発と教育方法や授業研究の方法を学ぶ。「授業実践基礎」では、授業観察と授業改善の方法を学ぶ。		
関連科目/Related Courses	共通科目「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」では、確かな学力・創造的な学力を保障する教材開発と教育方法や授業研究の方法を学ぶ。「授業実践基礎」では、授業観察と授業改善の方法を学ぶ。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>(授業の方法) 講義、演習、プレゼンテーションを組み合わせる。第1~10回および第15回は、議論を含む講義、演習形式で行う。第11~14回は、受講生によるプレゼンテーション形式で行う。</p> <p>(共に学ぶ効果と手立て) 現職院生は、授業における指導経験と児童生徒の学びに関する知識を持っている。学卒院生は、理科授業を受講する側からの経験はあるが、指導経験は教育実習等での限定的なものだけである。このような差のある集団で、理科授業に関する議論を進める。 学卒院生は、学部における理科教育法の授業を振り返り、指導のノウハウだけでなく、それを支える基礎的な考え方へ理解を深めるようになる。現職院生は、指導法を支える基礎的理論を復習し、自身の指導経験を振り返ることを通して、理科授業における多様性を確認する。 学習指導案の作成と模擬授業を実践することで、理科授業を立案して展開する方法を体験的に学ぶ過程で、学卒院生と現職院生の見方の異同を相互に確認しながら、深い学びを得るようになる。</p>		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<p>1～10, 15は講義, 演習形式, 11～14はプレゼンテーション。</p> <p>1, オリエンテーション 授業についての見通しや後半の課題発表について説明する。 受講者自身が形成している理科授業観を公開し, 理科教育の意義を考える。</p> <p>2, 学習指導要領, 理科の目的, 目標 理科の目的と目標について, 学習指導要領に沿って理解する。</p> <p>3, 子どもの自然認識と学習指導 自然事象に対する子どもの理解のしかたを学び, 理科学習の指導上の留意点を整理する。</p> <p>4, 科学概念 自然科学と理科教育における科学概念の関係を学ぶ。</p> <p>5, 理科の教育課程 教育課程の特質, 学習内容の系統性や一貫性について学ぶ。</p> <p>6, 理科の学習論 理科授業を支える学習論を学ぶ。</p> <p>7, 小学校理科の学習内容と教材研究 小学校理科の学習内容の配列や教材の特質を学ぶ。</p> <p>8, 中学校理科の学習内容と教材研究(1) 中学校理科の物理, 化学分野における学習内容の配列や教材の特質を学ぶ。</p> <p>9, 中学校理科の学習内容と教材研究(2) 中学校理科の生物, 地学分野における学習内容の配列や教材の特質を学ぶ。</p> <p>10, 高等学校理科の学習内容と教材研究 高等学校理科の学習内容の配列や教材の特質を学ぶ。</p> <p>11～14, 学習指導案の作成 と模擬授業 受講生の関心にもとづいて, 小・中・高校理科の中から, 1校時分の学習指導案を作成する。 それに基づき, 導入部分(10分程度)の模擬授業をおこない, 学習指導案の特質を検討する。</p> <p>15, まとめ 第1回で公開した受講者自身の理科授業観について, その変化の有無などを議論し, 理科教育の課題を探る。</p>
教科書・参考書等/Textbooks	<p>角屋重樹編：新しい学びを拓く理科授業の理論と実践－小学校編、ミネルヴァ書房(2011)。 大高 泉編：新しい学びを拓く理科授業の理論と実践－中学・高等学校編、ミネルヴァ書房(2013)。 その他のテキストは授業時に紹介する。</p>
成績評価の方法/Evaluation	<p>毎時間のミニレポート, 学習指導案, 模擬授業の発表等を総合的に判断する。</p>
学習上の助言/Learning Advice	<p>社会や時代の変化に対応した理科とはどのようなものでしょうか。理科の教師とは, 何を身に付け, 何ができるようになればよいのでしょうか。授業デザインを通して, 探究したいと思っています。</p>
キーワード/Keywords	
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	英語授業デザイン論		
代表教員(所属)/Instructor	渡辺 浩行(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402280
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 他 /Oth.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可 (出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	英語授業成立に必要な「学習者」「学習活動」「指導者」の3要素と英語授業実践に深く関わる「(第二)言語習得研究」「認知研究」などの観点で、小中高の録画英語授業を視聴分析し、どのような授業デザインが背景にあるかを探る。さらに、それらの要素・観点をもとに、小中高一貫・連携の英語教育を具現した英語授業デザイン、児童生徒の実態に即した授業デザインをワークショップ手法で作成・検討する。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 自分の授業実践に対する徹底した省察力を養い、質の高い英語授業デザイン力を習得する。その際、集団でデザインして授業改善ができる中核教員としてのリーダーシップも培う。 (学卒院生) 英語授業デザイン力と英語授業改善力の核を身につける。その際、個人レベルはもとより、集団でデザインして授業改善ができる協同性も養う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	選択科目になる。 学校改革力・授業力・個への対応力のうち、特に授業力の育成をねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	これまで受けてきた英語教育および指導してきた英語授業に対する内省。 共通科目では、「授業研究の運営と課題」「教材開発と教育方法の実践と課題」と関連がある。 選択科目では、「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」「授業改善とテクノロジー」と関連する。		
関連科目/Related Courses	授業研究の運営と課題, 教材開発と教育方法の実践と課題, 授業実践基礎 授業における個のとらえ方と対応, 授業改善とテクノロジー		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) 座学による講義だけでなく、事例を挙げ、録画授業の分析を行い、討議を通して授業デザイン、授業デザインの改訂を進める。グループワークによる授業シミュレーション、改善授業指導案作成などを組み合わせ、発表や質疑応答の機会を十分取り、appreciation and reflection for better designs を実践する reflective exploratory practitioner をめざす。(AL80) (共に学ぶ効果と手だて) 学卒院生と現職院生が共に学ぶ効果を活かし、「当たり前」「暗黙知」を超える省察力を養う。その手だてとして、両者が同じ土俵に立つべく、学びほぐし(unlearn)の手法で「幼小中高大すべての校種の英語授業分析」「第二言語習得論と認知論にもとづく(英語)授業研究」「行動主義、認知主義、社会構成主義による授業行動・授業デザイン分析」「授業案と授業デザインの比較検討」などに取り組む。(AL80)		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回:オリエンテーション 第2回:日本の英語授業の特徴と課題(授業録画ビデオ視聴) 第3回:英語授業デザインについて(授業録画ビデオ視聴)－(第二)言語習得研究からの示唆 第4回:英語授業デザインについて(授業録画ビデオ視聴)－認知論からの示唆 第5階:英語授業デザインについて(授業録画ビデオ視聴)－学習者・活動・指導者(教師) 第6回:英語授業分析・改善の視点と方法(授業録画ビデオ視聴) 第7回:グループ別討議(授業録画ビデオ視聴, 授業分析・改善) 第8回:グループ別討議(授業録画ビデオ視聴, 授業分析・改善) 第9回:中間発表会 第10回:グループ別討議(授業録画ビデオ視聴, 授業の分析・改善) 第11回:グループ別討議(授業録画ビデオ視聴, 授業の分析・改善) 第12回:実験授業案・授業改善案の事後検討会その1 第13回:実験授業案・授業改善案の事後検討会その2 第14回:実験授業案・授業改善案の事後検討会その3 第15回:まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	白井恭弘、『英語教師のための第二言語習得論入門』大修館書店、2012.		
成績評価の方法/Evaluation	・各授業での評価と振り返りワークシート ・発表内容と方法 ・分析内容と討議内容 ・最終レポート		

学習上の助言／Learning Advice	英語の授業デザインについて考え、実践する選択科目である。小中高一貫・連携をめざし、各校種に共通なグランドデザインに校種別（段階別）要素を盛り込むパースペクティブを持ち、教師にとっての授業デザイン以上に、学習者にとっての授業デザインを常に心がけてもらいたい。
キーワード／Keywords	英語授業デザイン 第二言語習得研究 英語授業分析・改善
備考／Notes	

授業科目名(英文名) / Course Title	道徳授業デザイン論		
代表教員(所属)/Instructor	和井内 良樹(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402290
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	和井内 良樹(Tel 028-649-5335 Mail wainai@cc.utsunomiya-u.ac.jp wainai@u-gakugei.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	和井内 良樹(火12:20~12:50 14:30~15:00 木12:20~12:50 16:00~16:30)		
授業の内容/Course Description	本授業は、道徳教育の意味と目的などの理論的吟味を踏まえた上で、学校における道徳教育および道徳授業の実践的課題について考えていく。特に「特別の教科 道徳」の特質を踏まえ、新しい道徳授業のあり方についても受講生とともに考えていきたい。		
授業の達成目標/Course Goals	本授業では、次の2点を目標とします。 ①道徳教育の基本的内容を踏まえながら、道徳授業の機能的役割をについて理解することができる。 ②様々な道徳授業の理論に学びながら、研究授業レベルの道徳学習指導案を構想し、道徳授業をデザインすることができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教職に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫する。		
前提とする知識/Prerequisites	学士課程における教育の原理的知識および道徳教育の基礎的知識を修得している。		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	本授業では、道徳授業の実際場面を視聴しながら道徳授業の機能的役割について授業を進める。道徳授業の理論について受講者がレジュメを作成して分担発表し、それに基づいて受講者全体で協議する。各自の道徳研究テーマに沿って研究授業指導案を構想し、受講生相互に模擬授業を行い成果と課題を検証する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. ガイダンス 2. 道徳授業実践研究①小学校低学年 3. 道徳授業実践研究②小学校中学年 4. 道徳授業実践研究③小学校高学年 5. 道徳授業実践研究④中学校 6. 道徳授業の理論研究①※ 7. 道徳授業の理論研究② 8. 道徳授業の理論研究③ 9. 道徳授業の理論研究④ 10. 道徳授業の理論研究⑤ 11. 様々な教育課題と道徳授業 12. 諸外国における道徳教育 13. 研究授業指導案演習① 14. 研究授業指導案演習② 15. まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：適宜資料を配付する。 参考書：押谷由夫 柳沼良太編著『道徳の時代をつくる！』教育出版(2014) 参考書：『私たちの道徳 小学校一・二年』文部科学省(2014) 『私たちの道徳 小学校三・四年』文部科学省(2014) 『私たちの道徳 小学校五・六年』文部科学省(2014) 文部科学省編著『私たちの道徳 中学校』廣済堂あかつき株式会社(2014)		
成績評価の方法/Evaluation	分担発表(50%)、レポート・学習指導案(50%)		
学習上の助言/Learning Advice	分担発表では、単に概要の説明に留まらず、問題意識を持って自分で発展的に調べてもらいたい。また、授業時はできるだけ積極的に発言してもらいたい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	教育実践研究方法論		
代表教員(所属)/Instructor	日野 圭子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402295
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 他 /0th.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	教育実践は多様な形態や方法で行われており、その特徴や構造を捉えることは容易ではない。連携協力校の学校改革や授業改善に協力することで現場に即した教育研究を進めるには、多様な教育実践に向かい合い、自らも参加しながら、データを収集したり分析したりしていくことになる。本授業では、具体的なデータを基に討議することを通して、教育実践を対象とする研究方法論について理解する。その際、質的研究の観点(日野)、談話分析の観点(司城)、量的研究の観点(久保田)、社会科学の観点(小野瀬)を取り入れることにより、多様な視点を獲得する。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 教育実践を対象とする研究方法論について理解する。 教育実践プロジェクトⅠA、ⅠBを進める上で、研究方法に関わる計画を立てる力を身に付ける。 (学卒院生) 教育実践を対象とする研究方法論について理解する。 長期インターンシップや教育実践プロジェクトⅡBを進める上で、研究方法に関わる計画を立てる力を身に付ける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	選択科目である。 授業や教育実践を改善する力を育てることに関連している。		
前提とする知識/Prerequisites	学部での教育実習を基礎とするとともに、すべての共通科目と関連する。また、「リフレクションⅠ、Ⅱ」とも関連させながら、活動を行っていく。		
関連科目/Related Courses	学部での教育実習を基礎とするとともに、すべての共通科目と関連する。また、「リフレクションⅠ、Ⅱ」とも関連させながら、活動を行っていく。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) 4名の教員によるオムニバス方式で進める。各教員が、それぞれの観点に関わって、資料や具体的なデータを準備し、課題や活動を設定して、個別やグループでの作業や討議を行う。授業の最後には、自分の研究の計画に関して振り返りを行う。 (共に学ぶ効果と手だて) 現職院生はこれまでの教職経験を生かした教育実践の捉え方をすることが期待され、学卒院生の教育実践に対する見方が広まると考えられる。一方で、学卒院生による固定化していない柔軟な視点も期待できる。両者の相互の関わりによって、教育実践を研究対象として多角的に捉え、対象への多様なアプローチの仕方を学んでいくことができる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1, オリエンテーション: 授業の目的、進め方等について(日野・久保田・司城・小野瀬) 2, 質的研究における研究の問い、研究日誌について(日野) 3, 質的研究におけるデータ収集について(日野) 4, 質的研究におけるデータ分析について(日野) 5, 質的研究法①談話分析について(司城) 6, 質的研究法②エピソード記述について(司城) 7, 質的研究法③その他の研究法について(司城) 8, 量的研究における研究計画とその処理について(久保田) 9, テキストマイニングによる自由記述の分析について(久保田) 10, 質的研究と量的研究の統合について(久保田) 11, 教育実践研究のためのリサーチデザイン-社会科学の観点から-① 問題設定について(小野瀬) 12, 教育実践研究のためのリサーチデザイン-社会科学の観点から-② 分析枠組について(小野瀬) 13, 教育実践研究のためのリサーチデザイン-社会学の観点から-③ 先行研究論文の具体的検討(小野瀬) 14~15, 授業のまとめと振り返り(日野, 久保田, 司城, 小野瀬)		
教科書・参考書等/Textbooks	秋田喜代美・藤江康彦『はじめての質的研究法—教育・学習編』東京図書. 2007. 岩崎美紀子『「知」の方法論 論文トレーニング』岩波書店. 2008. 清水美恵(編著)『授業を科学する: 数学の授業への新しいアプローチ』学文社. 2010. 関口靖広『教育研究のための質的研究法講座』北大路書房. 2013. その他		
成績評価の方法/Evaluation	課題に対する提出物、討論におけるパフォーマンスやレポートを総合的に判断して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	自分の研究の目的や方法について、重要性和課題を意識する機会にしてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	授業における個のとらえ方と対応/Understanding and Support for the Individuals in Classes		
代表教員(所属)/Instructor	司城 紀代美(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402310
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	司城 紀代美(前期:水曜16:00~17:00, 後期:金曜17:00~18:00 その他メールにて問い合わせてください。)		
授業の内容/Course Description	授業において、子どもがどのような筋道で思考し、意見を表明し、他者と協働するのかをとらえ、個々の子どもへの支援、指導の方法について検討する。授業ビデオの観察と討論により、個をとらえる力を養うとともに、他者の視点を取り入れながら自らの子どもに対する見方を修正する過程も重視する。教科指導の観点(松本)、特別支援教育の観点(司城)、学校現場での実務経験に基づく観点(原田・石嶋・鈴木)を取り入れることにより、多様な視点を獲得する。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 自らの個をとらえる視点や個別の支援のあり方を省察し、他者の考えを踏まえて、個々の子どもをとらえる視点を再構成する。 個の理解と支援という視点から授業を構築する力をつける。 (学卒院生) 授業において個をとらえる視点や個別の支援方法を身につける。 討論を通して、自分の見方や考え方を省察する力をつける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	選択科目(学卒院生必修)。 主に、「個への対応力」を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	共通科目では、「個に応じた指導の実際と評価」「授業研究の運営と課題」「特別支援教育の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業実践基礎」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」と関連します。		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「個に応じた指導の実際と評価」「授業研究の運営と課題」「特別支援教育の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業実践基礎」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」と関連します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) 授業ビデオの記録作成とそれに基づく協議を繰り返すことで、個をとらえる力を養う。研究者教員が自分の専門分野を生かした子どもの見方を提示することで、受講者の視点が多様なものになると考えられる。また、実務家教員の学校現場での経験をもとにした事例研究を行い、より具体的な個のとらえ方と対応について理解を深めることを目指す。 (共に学ぶ効果と手だて) 現職院生はこれまでの教職経験を生かして個をとらえることができると考えられ、このことが学卒院生の見方を広げ深めることに役立つ。ただし、現職院生はその経験から子どもの見方が固定化しているとも考えられ、これに対して学卒院生の枠にとらわれない柔軟な視点が役に立つ。両者は自分にはない視点を相互に得ることができ、子どもをより多角的にとらえられる教師として成長することができる。 観察記録には観察者の視点があらわれると考えられるため、現職院生と学卒院生がお互いの観察記録から学ぶことができるように観察記録をもとにした討論の場を数多く設定する。		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への導入。授業の目的、進め方等について確認するとともに、授業において個をとらえることの重要性とその方法について共通理解を図る。（司城・松本・原田・石嶋） 2. 個の児童に着目しながら授業ビデオを視聴し、観察記録をまとめる。（松本） 3. 前時で視聴した授業について、観察記録をもとに協議し、児童の思考、表現、他者との相互作用等について考察する。（松本） 4. 個の児童に着目しながら授業ビデオを視聴し、観察記録をまとめる。（松本） 5. 前時で視聴した授業について、観察記録をもとに協議し、児童の思考、表現、他者との相互作用等について考察する。教科指導の視点から授業における個のとらえ方と対応について討論する。（松本・原田・石嶋） 6. 個の児童に着目しながら授業ビデオを視聴し、観察記録をまとめる。（司城） 7. 前時で視聴した授業について、観察記録をもとに協議し、児童の思考、表現、他者との相互作用等について考察する。（司城） 8. 個の児童に着目しながら授業ビデオを視聴し、観察記録をまとめる。（司城） 9. 前時で視聴した授業について、観察記録をもとに協議し、児童の思考、表現、他者との相互作用等について考察する。特別支援教育の視点から、授業における個のとらえ方と対応について討論する。（司城・原田・石嶋） 10. 実務家教員が自らの実践事例をもとに授業における個のとらえ方について話題提供し、参加者全員による討論を行う。（石嶋） 11. 実務家教員が自らの実践事例をもとに授業における個のとらえ方について話題提供し、参加者全員による討論を行う。（石嶋） 12. 実務家教員が自らの実践事例をもとに授業における個のとらえ方について話題提供し、参加者全員による討論を行う。（鈴木） 13. 実務家教員が自らの実践事例をもとに授業における個のとらえ方について話題提供し、参加者全員による討論を行う。（鈴木） 14. 実務家教員が自らの実践事例をもとに授業における個のとらえ方について話題提供し、参加者全員による討論を行う。（原田） 15. 授業全体を振り返り、教師が個をとらえ支援する過程について関する各自の考えを交流する。（司城・松本・原田・石嶋）
教科書・参考書等 /Textbooks	（参考書） 秋田・藤江著『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会，2010. 牧田・秋田著『教える空間から学び合う場へ』東洋館出版，2012.
成績評価の方法 /Evaluation	授業記録の提出物，研究協議後の省察レポート，討論におけるパフォーマンスを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 /Learning Advice	受講者一人ひとりが，自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。
キーワード /Keywords	
備考 /Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	特別支援教育コーディネーターの役割と課題／Roles and Tasks of Special Education Coordinator		
代表教員(所属)／Instructor	原田 浩司(教育学部)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	M402320
開講学期曜日時限／Period	2017年度／Academic Year 前期集中／Intensive 他 /Oth.	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	主として通常の小学校・中学校における特別支援教育コーディネーターの役割と機能について学ぶ。学校内の関係者間での連携協力および特別支援学校などの教育機関や医療・福祉機関などとの連携協力に関する実践事例を取り上げ、必要な資質や知識・技能など専門家としての力量形成を促す。		
授業の達成目標／Course Goals	<p>(現職院生) 特別支援教育コーディネーターの役割と課題を理解し、専門家としての資質向上を図る。事例をもとにした演習を通して、校内外の関係者・機関と連携することのできる専門性を習得する。</p> <p>(学卒院生) 特別支援教育コーディネーターの役割と課題についての知識と理念を理解する。実践事例を通して特別支援教育コーディネーターの役割と機能について理解し、専門家としての力量向上を図る</p>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	選択科目 主に個への対応力を育成することをねらいとする科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	特別支援教育コーディネーター、校内委員会、個別の指導計画に関する基礎知識		
関連科目／Related Courses	共通科目では、「特別支援教育の実践と課題」「学校改革の実践と課題」「学校教育をめぐる現代的な社会状況とその対処」と関連があります。 選択科目では、「授業における個のとりえ方と対応」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」「障害が重い子どもへの教育の在り方」と関連します。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<p>(授業の方法) 授業者による講義のほかに、様々な実践事例をもとにして受講者全体あるいは少人数による研究・討論を行う。 演習においては、特別支援教育コーディネーターが行う校務内容を学校や地域の実態に応じて吟味し、支援が必要な子どもにどのような有効性があるのかを分析する。事例検討では、現職院生の具体的な経験を取り上げ、学校現場の複雑な問題に対してどのように対応するかを検討する。また、演習の中にロールプレイングの時間を設定し、特別支援教育コーディネーターの多様な取り組みと柔軟な支援方法についても体験を通して学習・研究・分析する力量形成を促す。</p> <p>(共に学ぶ効果と手だて) 現職院生、学卒院生ともに、特別支援教育コーディネーターの多様な能力・資質が求められていることに気づき、より多角的な視点とコミュニケーション力をもつことができると考えられる。 事例検討においては、現職院生は自分の学校の実践の中から事例を選び、資料を作成したり、校内支援体制についてまとめたりすることで、特別支援教育コーディネーターとの関係性を省察することができ、学卒院生は、現職院生の実践に触れることで、学校現場における実践的で複雑な支援システムについて考察することができる。両者がともに特別支援教育コーディネーターの役割について検討することで、学校現場で経験や能力・適性が異なる教員同士をまとめていくプロセスについて考察することが可能になる。</p>		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の趣旨・進め方の確認。「特別支援教育コーディネーターとは」について講義し、特別支援教育の果たすべき役割と課題についての課題意識を明確にする。 2 特別支援教育の諸活動と特別支援教育コーディネーターの役割について事例をもとに検討する。 3 特別支援教育コーディネーターの校務内容と資質・技能の関連性について事例をもとに検討する。 4. 学校経営の機能と特別支援教育コーディネーターの関係性について事例をもとに検討する。 5. 校内委員会の運営と特別支援教育コーディネーターの果たすべき役割について事例をもとに検討する。 6. 外部機関との連携について特別支援教育コーディネーターの果たすべき役割について事例をもとに検討する。 7. 幼保小中高の連携・協力と特別支援教育コーディネーターの果たすべき役割について事例をもとに検討する。 8. 就学指導と特別支援教育コーディネーターの果たすべき役割について事例をもとに検討する。 9. 児童生徒指導と特別支援教育コーディネーターの関係性について事例をもとに検討する。 10. ロールプレイング：校内委員会を擬似的に設定し特別支援教育コーディネーターの役割を交代で体験することで、コーディネーターとしての資質や適性について検討する。 11. ロールプレイング：校内委員会を擬似的に設定し特別支援教育コーディネーターの役割を交代で体験することで、コーディネーターの役割と課題について検討する。 12. 発達障害の指導事例をもとに学級担任への助言や校内支援体制の整備など特別支援教育コーディネーターに求められる専門性について検討する。 13. 学習不応答や対人関係が困難な子が複数いる学級への介入について、事例をもとに特別支援教育コーディネーターに求められる専門性について検討する。 14. 学校内に複雑な問題が多数混在している危機的な状況への介入について、事例をもとに特別支援教育コーディネーターに求められる専門性について検討する。 15. 授業全体を振り返り、特別支援教育コーディネーターの役割と課題について各自の考えを交流する。
教科書・参考書等/Textbooks	柘植雅義著「特別支援教育―多様なニーズへの挑戦―」中公新書。2013
成績評価の方法/Evaluation	研究協議後の省察レポート，討論におけるパフォーマンスを総合的に判断して評価する。
学習上の助言/Learning Advice	実践事例を通して学校現場で起こる複雑で多様な現実を理解しながら、実践力と専門性を磨いていきましょう。
キーワード/Keywords	特別支援教育コーディネーター
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	特別な支援が必要な子どもへの理解と対応/Understanding and support for children with special needs		
代表教員(所属)/Instructor	司城 紀代美(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402330
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期/First semester 水/Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	司城 紀代美(前期:水曜16:00~17:00, 後期:金曜17:00~18:00 その他メールにて問い合わせてください。)		
授業の内容/Course Description	通常の学級において特別な支援が必要とされる子どもの理解のしかたおよび支援方法について検討する。ビデオ映像を用いた観察記録の作成方法、エピソードの分析方法などの演習を行い、多角的な子ども理解の視点を身につけた上で、現職院生の実践に基づく事例検討を行う。一連の学習を通して、具体的な個々の子どもの姿から支援方法を構築する過程を参加者が共有し、支援のための教師の思考の道筋、同僚や保護者との協働のあり方について探求する。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 支援が必要な子どもたちニーズを多角的にとらえる視点を獲得する。 同僚と協働し、子どもたちの具体的な姿から支援方法を構築するための方法論を習得する。 (学卒院生) 通常の学級における特別支援教育の課題を理解する。 協働的に支援方法を構築する方法論の基礎を習得する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	選択科目。 主に、「個への対応力」を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	共通科目では、「生徒指導の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業における個のとらえ方と対応」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」「障害が重い子どもへの教育の在り方」と関連します。		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「生徒指導の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業における個のとらえ方と対応」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」「障害が重い子どもへの教育の在り方」と関連します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) 授業者による講義のほかに、観察記録の作成やエピソード記録の分析などの演習、受講者全体あるいは少人数による討論を行う。 演習においては、支援が必要な子どもを詳細にとらえるためのエスノグラフィーの手法、実践に即した支援方法の構築につながるアクションリサーチなど、教育学・心理学の質的研究法を活用する。事例検討では、現職院生の具体的な経験を取り上げ、複雑な問題に対してどのように対応するかを検討する。一つの事例についてじっくりと検討する過程を体験するため、一事例に対する検討時間を十分にとる。 (共に学ぶ効果と手だて) 観察記録の作成やエピソードの分析は、子どもの発達や特別支援教育に対する自分自身の考え方を振り返ることにつながる。現職院生、学卒院生ともに、多様な他者の記録や分析に触れることで、自分の思考や子どもをとらえ方の特徴に気づき、より多角的な視点をもつことができると思われる。 事例検討においては、現職院生は自分の実践の中から事例を選び、資料を作成したり、子どもについて語ったりすることで、自分の実践を省察するができ、学卒院生は、現職院生の実践に触れることで、より具体的で複雑な支援の過程について考えることができる。両者がともに支援方法について検討することで、学校現場で経験の異なる教員同士が協議するための手立てについて考察することが可能になる。		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション。授業の目的、進め方等について確認する。 2. 発達障害や特別な支援が必要な子どもについての文献をもとに、障害や支援のとらえ方について検討する。 3. 子ども理解の方法としての質的研究法について講義および演習を行う。 4. ビデオ視聴により、子どもの行動観察の手法について演習を行う。 5. 前回作成した記録をもとに少人数のグループに分かれて討論し、自分の観察の視点や記録方法の特徴について知る。 6. エピソードをもとにした子ども理解の手法について演習を行う。 7. 前回作成した資料をもとに少人数のグループに分かれて討論し、自分の子ども理解の特徴について知る。 8. インタビューやカウンセリングの手法を演習しながら、保護者や同僚との連携について検討する。 9. アクションリサーチの手法について理解し、支援計画の立て方について演習を行う。 10. 現職院生による事例を受講者全員で検討し、支援計画について討論する。 11. 現職院生による事例を受講者全員で検討し、支援計画について討論する。 12. 2回の討論について振り返り、支援計画を立てる過程について考察する。 13. 現職院生が事例を提出し、少人数のグループに分かれて支援計画について討論する。 14. 学卒院生がグループでの話し合いについてまとめたものを報告する。 15. 各自が授業を踏まえて支援方法の構築過程について分析し、レポートとしてまとめたものを報告し合う。
教科書・参考書等 /Textbooks	（参考書） 秋田・恒吉・佐藤編『教育研究のメソドロジー—学校参加型マインドへのいざない—』東京大学出版会，2005。 柴山真琴著『子どもエスノグラフィー入門—技法の基礎から活用まで—』新曜社，2006。 秋田喜代美編『教師の言葉とコミュニケーション—教室の言葉から授業の質を高めるために—』教育開発研究所，2010。
成績評価の方法 /Evaluation	演習後の提出物，討論でのパフォーマンス，最終レポートを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 /Learning Advice	受講者一人ひとりが，自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。
キーワード /Keywords	
備考 /Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	障害の重い子どもへの教育の在り方/Education for People with Profound and Multiple Learning Disability		
代表教員(所属)/Instructor	岡澤 慎一(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M402340
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 前期集中/Intensive 他 /0th.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	岡澤 慎一(028-649-5350 okazawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	岡澤 慎一(月曜9:00~10:00, 12:10~12:40)		
授業の内容/Course Description	主として特別支援学校に在籍する障害の重い子どもへの教育のあり方について、特に実践的・臨床的観点から学ぶ。実践研究論文は、担当教員自身によって執筆されたものか、あるいは、担当教員の周辺で実践され執筆されたものを取りあげる。実践研究論文の講読、映像資料に基づく事例検討などを重ね、個別性に基づいた教育的係わり合いのプロセスを共有したい。こうした取り組みのなかで、受講生は、障害の重い子どもとの教育的係わり合いの実践について知るとともに、実践研究の方法論および事例検討の考え方と技術を習得する。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 障害の重い子どもとの教育実践研究の方法、教育実践を議論する方法を省察することができる。 事例検討において、議論を深めるための考え方と技能を習得する。 (学卒院生) 障害の重い子どもとの教育実践研究の方法、教育実践を議論する方法を身につける。 事例検討によって、教育実践改善への道筋を考えることができることを知る。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	特別支援教育における実践的省察力の形成・促進を意図した科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	共通科目では、「特別支援教育の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」と関連します。		
関連科目/Related Courses	共通科目では、「特別支援教育の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」と関連します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) 担当教員自身によって執筆されたものか、あるいは、担当教員の周辺で実践され執筆された実践研究論文を取りあげ、受講生は、こうした実践研究論文を講読し、実践研究の意義やプロセスについて小グループでの議論を重ねる。その後、担当教員が実践研究論文について対応する映像資料をふんだんに用いつつ詳細に解説し、その上で、教員と受講生、受講生相互のさらなる議論が展開される。こうしたサイクルを重ねていく。 (共に学ぶ効果と手だて) 障害の重い子どもへの教育については、現職院生、学卒院生ともに十分な経験と実践的見識は有していないことが推測される。しかしながら、双方ともに授業を重ねるなかで、障害の重い子どもの教育は、教育の原点といわれることの意味を見出し、共有し、各々の教育実践経験に基づきながら、双方が自分自身の教育観を深化させていくことが期待される。		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の趣旨，進め方について説明する．重複障害教育の歴史や現状と課題について講義する． 2. 「岡澤慎一（2008）しきりにおんぶを求めたジュンコさんとの係わり合いの省察．障害児教育学研究，11（2），31-43」を講読する． 3. 2. で取り上げた実践研究論文について，小グループで議論を重ね，発表する． 4. 2. で取り上げた実践研究論文について，映像資料に基づいて担当教員が解説し，受講生との議論を重ねる． 5. 「岡澤慎一・川住隆一（2005）重症心身障害者の食事行動の改変過程とその際の援助方略の検討．東北大学大学院教育学研究科研究年報，54(1)，271-293」を講読する． 6. 5. で取り上げた実践研究論文について，小グループで議論を重ね，発表する． 7. 5. で取り上げた実践研究論文について，映像資料に基づいて担当教員が解説し，受講生との議論を重ねる． 8. 「岡澤慎一・川住隆一（2004）重症心身障害者間相互におけるコミュニケーションの促進．特殊教育学研究，42(4)，303-315」を講読する 9. 8. で取り上げた実践研究論文について，小グループで議論を重ね，発表する． 10. 8. で取り上げた実践研究論文について，映像資料に基づいて担当教員が解説し，受講生との議論を重ねる． 11. 「岡澤慎一・川住隆一（2005）自発的な身体の動きがまったく見いだされなかった超重症児に対する教育的対応の展開過程．特殊教育学研究，43(3)，203-214」を講読する． 12. 11. で取り上げた実践研究論文について，小グループで議論を重ね，発表する． 13. 11. で取り上げた実践研究論文について，映像資料に基づいて担当教員が解説し，受講生との議論を重ねる． 14. これまでの授業経過を踏まえたうえで，担当教員より映像資料に基づく実践事例を紹介し，受講生との議論を重ねる． 15. これまでを振り返って，実践研究論文を講読する視点と実践研究の方法，事例検討での意見交換の仕方や意見のまとめ方についてレポートをまとめ，小グループで意見交換をする．
教科書・参考書等 /Textbooks	<p>文部省（1970）重複障害教育の手びきー盲聾児・盲精薄児・聾精薄児ー． 文部省（1983）重複障害児指導事例集． 国立特殊教育総合研究所重複障害教育研究部（編）重度・重複障害児の事例研究（第一集？第二十五集）． 重度・重複障害児指導研究会（編）（1979）重度・重複障害児の指導技術（第1巻？第6巻）．岩崎学術出版社． 高谷清（2011）重い障害を生きるということ．岩波書店．</p>
成績評価の方法 /Evaluation	<p>提出物，発表レポート，事例検討での発言等のパフォーマンスを総合的に判断して評価する．</p>
学習上の助言 /Learning Advice	<p>「重複障害」に限らず，種々の障害状況にある人との係わり合いについて実践的に検討したいと思います。「方法」や「技術」の習得の前に，人と人とが係わり合うことの意味とは何か，一緒に議論し，考えていければと思います．</p>
キーワード /Keywords	
備考 /Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	リフレクションⅠ/Reflection I		
代表教員(所属)/Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	M403110
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 通年/Year-long 金/Fri 5, 金/Fri 6, 金/Fri 7, 金/Fri 8	単位数/Credits	4単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	<p>実習(教育実践プロジェクト・長期インターンシップ)における「実践」と、共通科目および選択科目における「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を意図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや長期インターンシップにおける課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。また、往還の成果は報告書等にまとめ、発表する。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	<p>(現職院生) 教育実践プロジェクトにおける課題設定、計画立案、省察、改善、報告書の作成、成果発表ができる。 教育実践プロジェクトにおける課題解決を進める過程で、理論と実践を往還することができる。</p> <p>(学卒院生) 長期インターンシップにおける課題設定、計画立案、省察、改善、報告書の作成、成果発表ができる。 長期インターンシップの課題解決を現職院生と協働しながら進めることで、理論と実践を往還する意味を理解できる。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	<p>必修科目 主に、学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。</p>		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	すべての共通科目と選択科目と関連する。また、「教育実践プロジェクトⅠ」および「長期インターンシップ」と直接的に関連しながら、課題の設定や省察、活動のまとめを行う。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>(授業の方法) 学年ごとに、学生、主担当教員、副担当教員がチームを構成し、「チームリフレクション」を行うことを基本とする。前期は、以下を行う。現職院生は、連携協力校のテーマに関連する理論や実践の整理を行う。学卒院生は、長期インターンシップでの課題設定及び活動計画を行う。後期は、教育実践プロジェクトおよび長期インターンシップの活動を省察する。この他に、チーム間の情報の共有や連携を図ると共に、自チームの省察をより深めるため、「合同リフレクション」を開催する。また、チームの活動だけでなく、個人の課題解決に対応するために、適宜、「個別リフレクション」を行う。</p> <p>(共に学ぶ効果と手だて) 現職院生、学卒院生、主担当教員、副担当教員がチームを構成し、チームリフレクションを行う。これによって現職院生は、課題解決の過程を、学卒院生に説明することによって、実践と関連する理論や省察の内容を整理できる。また、学卒院生の課題解決の過程を知り、アドバイスすることで、校内のリーダーとして若手教員とのよりよい関わり方を学ぶ。学卒院生は、現職院生の経験を知ること、教育実践や学校現場の理解ができる。また、学卒院生は、実践経験が少なく、理論が先行しがちである。現職院生の経験を聞くことで少ない実践を補い、理論と実践の往還を促進させることができる。</p>		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<p>（現職院生）</p> <p>1. 4月 これまでの教育実践の紹介をしたり、専任教員の専門と教育実践プロジェクトの活動事例を聞き主担当教員を決定したりする。</p> <p>2. 5?6月 主担当教員ごとにゼミナールを行うことで、これまでの教育実践と理論との関連、各自の関心の絞り込みを行う。6月末に連携校が決定する。</p> <p>3. 7?8月 連携校の校内研修等へ参加することで、学校の現状や連携テーマを理解する。また、連携テーマに関連する文献や先行実践を整理することで、実践研究の見通しを立てる。</p> <p>4. 9月 連携校の教育活動に参加する。それによって情報を元に、連携の方向性および関連する研究課題（学生やチームが設定する課題）を設定する。合同リフレクションを行い、チーム間の交流を行う。</p> <p>5. 10?12月 各自やチームの実践及び問題解決の過程を分析する。</p> <p>6. 1?2月 活動全体を分析し、実践研究報告書を作成する。分析結果や提言等は、連携校に報告する。また、次年度の連携の有無や連携の方向性を検討する。合同リフレクションを行い、チーム間の交流を行う。</p> <p>（学卒院生）</p> <p>1. 4月?5月 これまでの経験から自己の課題を明確にする。現職院生との交流から、実践現場の理解を進める。</p> <p>2. 6月?7月 附属学校との事前打ち合わせを行う。共通科目や選択科目で取得する理論と打合せの内容を関連させながら、課題設定及び活動計画を進める。</p> <p>3. 9月?10月 自己の活動と教育理論との関連を整理する。11月以降に行う授業実践の研究テーマを決め、具体的な指導計画を作成する。合同リフレクションを行い、チーム間の交流を行う。</p> <p>4. 11月から12月 連続した授業実践を行う中で、活動の振り返り、修正を進める。</p> <p>5. 1?2月 活動全体を分析し、実践研究報告書を作成する。また、現職院生の活動報告を聞きながら、次年度の活動イメージを構築する。合同リフレクションを行い、チーム間の交流を行う。</p>
教科書・参考書等 /Textbooks	チーム毎に設定される。
成績評価の方法 /Evaluation	評価は、2名の担当教員で行う。実習のポートフォリオ、実践報告書、成果発表を総合的に評価する。また、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。
学習上の助言 /Learning Advice	全員必修
キーワード /Keywords	
備考 /Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	リフレクションII / Reflection II		
代表教員(所属) / Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	M403120
開講学期曜日時限 / Period	2017年度 / Academic Year 通年 / Year-long 金 / Fri 5, 金 / Fri 6, 金 / Fri 7, 金 / Fri 8	単位数 / Credits	4単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容 / Course Description	<p>実習(教育実践プロジェクト・長期インターンシップ)における「実践」と、共通科目および選択科目における「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を意図した科目である。リフレクションIを踏まえ、これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや長期インターンシップにおける課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。また、往還の成果は報告書等にまとめ、発表する。</p>		
授業の達成目標 / Course Goals	<p>(現職院生) 教育実践プロジェクトにおける課題設定、計画立案、省察、改善、報告書の作成、成果発表ができる。 教育実践プロジェクトにおける課題解決を進める過程で、理論と実践の往還を継続的に進めることができる。</p> <p>(学卒院生) 教育実践プロジェクトにおける課題設定、計画立案、省察、改善、報告書の作成、成果発表ができる。 教育実践プロジェクトの課題解決を現職院生と協働しながら進めることで、理論と実践を往還することができる。</p>		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	<p>必修科目 主に、学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。</p>		
前提とする知識 / Prerequisites	特になし		
関連科目 / Related Courses	すべての共通科目と選択科目と関連する。また、「教育実践プロジェクトI・II」および「長期インターンシップ」と直接的に関連しながら、課題の設定や省察、活動のまとめを行う。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	<p>(授業の方法) 学年ごとに、学生、主担当教員、副担当教員がチームを構成し、「チームリフレクション」を行うことを基本とする。前期は、以下を行う。現職院生は、連携協力校のテーマに関連する理論や実践の整理を行う。学卒院生は、長期インターンシップでの課題設定及び活動計画を行う。後期は、教育実践プロジェクトおよび長期インターンシップの活動を省察する。この他に、チーム間の情報の共有や連携を図ると共に、自チームの省察をより深めるため、「合同リフレクション」を開催する。また、チームの活動だけでなく、個人の課題解決に対応するために、適宜、「個別リフレクション」を行う。</p> <p>(共に学ぶ効果と手だて) 現職院生、学卒院生、主担当教員、副担当教員がチームを構成し、チームリフレクションを行う。これによって現職院生は、課題解決の過程を、学卒院生に説明することによって、実践と関連する理論や省察の内容を整理できる。また、学卒院生の課題解決の過程を知り、アドバイスすることで、校内のリーダーとして若手教員とのよりよい関わり方を学ぶ。学卒院生は、現職院生の経験を知ること、教育実践や学校現場の理解ができる。また、学卒院生は、実践経験が少なく、理論が先行しがちである。現職院生の経験を聞くことで少ない実践を補い、理論と実践の往還を促進させることができる。</p>		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<p>（現職院生）</p> <p>1. 前期 1年次の教育実践プロジェクトおよびリフレクションで得られた課題を整理し、課題解決のための方略を学校側と共に検討する。連携校の校内研修等に参加することで、詳細な実態把握に努める。前年度の活動を連続して進めたり、年度末に提案した内容を実施することも考えられるため、実態に応じて連携校での活動とする。 これまでの教育実践の紹介をしたり、専任教員の専門と教育実践プロジェクトの活動事例を聞き担当教員を決定したりする。</p> <p>2. 後期 9月から12月は、前期に計画された改善案を実施・評価することで、学生やチームが設定する課題を解決する。1～2月は、活動の分析をおこない、実践研究報告書を作成する。分析結果や提言等は、昨年度の比較も含めて連携校に報告する。</p> <p>（学卒院生）</p> <p>1. 前期 前年度のリフレクションで見いだされた課題を明確にする。更に、現職院生が行っている、連携協力校の連携テーマに関連する活動に参加することで、連携協力校の実態を理解する。</p> <p>これまでの経験から自己の課題を明確にする。現職院生との交流から、実践現場の理解を進める。</p> <p>2. 後期 9月～10月は、自己の活動と教育理論との関連を整理する。また、11月以降に予定された授業実践のテーマを決め、具体的な指導計画を作成する。 11月から12月は、連続した授業実践を行いながら、活動の振り返り、修正を進める。また、現職院生が設定した課題について、問題解決の過程を分析する。 1～2月は、活動全体を分析し、実践研究報告書を作成する。</p>
教科書・参考書等 /Textbooks	チーム毎に設定される
成績評価の方法 /Evaluation	評価は、2名の担当教員で行う。実習のポートフォリオ、実践報告書、成果発表を総合的に評価する。また、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。
学習上の助言 /Learning Advice	全員必修。
キーワード /Keywords	
備考 /Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育実践プロジェクトⅠ／Project of Educational Practice I		
代表教員(所属)／Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別／Type of Class	実習	時間割コード／Registration Code	M404110
開講学期曜日時限／Period	2017年度／Academic Year 通年／Year-long 他/Oth.	単位数／Credits	5単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	自己の伸長すべき力と同じテーマをもつ連携協力校に配属される。連携協力校の学校改革や授業改善に協力することで、現場に即した教育研究を進める。スクール・リーダーとなる教師を育成するため、学校の要望に応じて、授業や教育研究を支援したり、連携協力校の教諭とチームティーチング等を組みながら、課題解決を行うことで、学校改革力、授業力、個への対応力を養う。		
授業の達成目標／Course Goals	(現職院生) 学校改革のため学校課題を見極め、その解決を推進することや、学校内外と協働して課題解決に取り組むことができる。 授業研究を組織しリードすることや、すべての学習者に深い学びを保障することができる。 特別支援教育の考え方を学習指導や学校経営に生かすことができる		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	必修科目(現職者) 主に、学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし		
関連科目／Related Courses	これまでの実践を基礎とし、すべての共通科目と選択科目と関連する。また、「リフレクションⅠ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業の方法) 授業は、主担当教員および副担当教員が共同で授業を担当する。自己の伸長すべき力と同じテーマをもつ連携協力校に配属される。連携協力校の学校改革や授業改善に協力することで、現場に即した教育研究を進める。 連携協力校の連携テーマに応じて実習の形態を決定する。週2回(1回4時間)×約19週もしくは週2回(1回8時間)×約10週を行う「分散型」を基本とするが、授業実践等の関連で連続して行うこともある。活動形態はチームごとに異なるが、概ね以下の活動となる。4から7月は連携協力校と連絡を取りながら9月からの活動を計画する。9?12月は、具体的な連携をしながら、各自やチームの実践や問題解決を進める。活動やその考察は、ポートフォリオに蓄積する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. 年度当初に、リフレクションの活動を通して、主担当教員を決定する。 2. 連携協力校にて、ガイダンスおよび事前打ち合わせを行う。 3. 随時協議を行い、自己の課題解決と連携テーマを受けた教育実践プロジェクトの活動を調整する。 4. 150時間以上の活動を行う。 5. 活動は、学校や連携テーマに応じて調整するが、以下の例がある。 第1週?第4週:学校および児童理解 ・児童生徒の実態、地域のニーズ、学校の教員組織などを把握する。 第5週?第18週:各活動 校内研究会、研究推進委員会が行なわれる日など決められた曜日に活動する。その活動内容は、以下を想定する。 ・特別支援を必要とする児童・生徒の指導に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、親との面接、地域との話し合いに参加するなど親や地域との連携を図りながら課題解決のための方策を提案する。 ・校内研究会の運営に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、研究主任と連絡し、研究授業などの授業記録や児童・生徒のノート分析を支援する。提案授業を実施したり、協議会で意見交換、記録作成などを行う。 ・生徒指導、学校運営に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、生活指導主任と連絡を取りながら生徒指導の支援策を検討する。 ・地域と学校との連携に関する課題の支援策を策定・企画し、実施・評価する。例えば、校長、教頭と連絡を取りながら、地域のニーズ調査、PTA 活動への参加、地域の他の教育機関との連絡調整を行う。 ・学校評価に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、教務主任と連絡を取りながら、学校評価の内容や方法の再検討、評価結果の分析や考察の補助を行う。 第19週:提案 活動の成果をふまえ、学校改革・授業改善の提案を行う。		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし		

成績評価の方法／Evaluation	評価は、2名の担当教員で行う。観察と実習日誌による活動の状況から、実践的指導力の向上を総合的に判断する。また、リフレクションと関連して行う、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。
学習上の助言／Learning Advice	現職院生は全員必修。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	教育実践プロジェクトIIA/Project of Educational Practice IIA		
代表教員(所属)/Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別/Type of Class	実習	時間割コード/Registration Code	M404120
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 通年/Year-long 他/Oth.	単位数/Credits	5単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	教育実践プロジェクトIを踏まえ、引き続き自己の伸長すべき力と同じテーマをもつ連携協力校に配属される。連携協力校の学校改革や授業改善に協力することで、現場に即した教育研究を進める。スクール・リーダーとなる教師を育成するため、学校の要望に応じて、授業や教育研究を支援したり、連携協力校の教諭とチームティーチング等を組みながら、課題解決を行うことで、学校改革力、授業力、個への対応力を養う。		
授業の達成目標/Course Goals	(現職院生) 学校改革のため学校課題を見極め、その解決を推進することや、学校内外と協働して課題解決に取り組むことができる。 授業研究を組織しリードすることや、すべての学習者に深い学びを保障することができる。 特別支援教育の考え方を学習指導や学校経営に生かすことができる		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	現職院生の必修科目 主に、学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	これまでの実践を基礎とする。		
関連科目/Related Courses	これまでの実践を基礎とし、すべての共通科目と選択科目と関連する。また、「リフレクションII」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業は、主担当教員および副担当教員が共同で授業を担当する。自己の伸長すべき力と同じテーマをもつ連携協力校に配属される。連携協力校の学校改革や授業改善に協力することで、現場に即した教育研究を進める。 連携協力校の連携テーマに応じて実習の形態を決定する。週2回(1回4時間)×約19週もしくは週2回(1回8時間)×約10週を行う「分散型」を基本とするが、授業実践等の関連で連続して行うこともある。活動形態はチームごとに異なるが、概ね以下の活動となる。9月から12月の4か月間を主な実習期間とする。9月は、週2回程度の教育活動(授業など)に参加しながら、連携テーマと連携校の実態を具体的に把握し、10月以降の活動を計画する。10~12月は、具体的な連携をしながら、各自やチームの実践や問題解決を進める。活動やその考察は、ポートフォリオに蓄積する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. 連携協力校と連絡をとりながら、活動を計画する。 2. 随時協議を行い、自己の課題解決と連携テーマを受けた教育実践プロジェクトの活動を調整する。 3. 150時間以上の活動を行う。 4. 活動は、学校や連携テーマに応じて調整するが、以下の例がある。 第1週~第18週:各活動 校内研究会、研究推進委員会が行なわれる日など決められた曜日に活動する。その活動内容は、以下を想定する。 ・特別支援を必要とする児童・生徒の指導に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、親との面接、地域との話し合いに参加するなど親や地域との連携を図りながら課題解決のための方策を提案する。 ・校内研究会の運営に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、研究主任と連絡し、研究授業などの授業記録や児童・生徒のノート分析を支援する。提案授業を実施したり、協議会で意見交換、記録作成などを行う。 ・生徒指導、学校運営に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、生活指導主任と連絡を取りながら生徒指導の支援策を検討する。 ・地域と学校との連携に関する課題の支援策を策定・企画し、実施・評価する。例えば、校長、教頭と連絡を取りながら、地域のニーズ調査、PTA活動への参加、地域の他の教育機関との連絡調整を行う。 ・学校評価に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、教務主任と連絡を取りながら、学校評価の内容や方法の再検討、評価結果の分析や考察の補助を行う。 第19週:提案 活動の成果をふまえ、学校改革・授業改善の提案を行う。		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし		
成績評価の方法/Evaluation	評価は、2名の担当教員で行う。観察と実習日誌による活動の状況から、実践的指導力の向上を総合的に判断する。また、リフレクションと関連して行う、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	現職院生は全員必修。		
キーワード/Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	長期インターンシップ/Long-term Internship		
代表教員(所属)/Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別/Type of Class	実習	時間割コード/Registration Code	M404130
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 通年/Year-long 他/Oth.	単位数/Credits	5単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	即戦力となる新人教員の養成のため、附属小中学校において授業の参与観察やチームティーチング、個別指導を行う中で、教師としての使命感・自覚を身に付けるとともに、子ども理解に基づいて授業計画力、授業指導力、授業分析力を養う。また、担任業務の補助をすることで、学習指導以外の職務を理解する。これらを通して、2年次の教育実践プロジェクトIIBで解決すべき、自己の課題を把握する。		
授業の達成目標/Course Goals	<p>(学卒院生)</p> <p>子ども理解に基づいて、授業を計画すること、授業指導を展開すること、授業を分析することができる。</p> <p>授業以外の担任業務を理解することができる。</p> <p>【前提とする知識・関連する科目等】</p> <p>学部での教育実習を基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団作り論」「授業実践基礎」「授業における個のとりえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションI」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	必修科目(1年次学卒院生) 主に、学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	学部での教育実習を基礎とする。		
関連科目/Related Courses	学部での教育実習を基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団作り論」「授業実践基礎」「授業における個のとりえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションI」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>授業は、主担当教員および附属小中学校の主幹(見なし専任)が共同で授業を担当する。9月から12月の間、特定のクラスに配属され、150時間の活動を行う。前半は、担任と行動を共にし、業務の補助や授業における個別支援をしながら、担当学級の理解、教育活動全般の理解、個への対応の在り方の理解を促進する。後半は、特定教科の単元もしくは小単元を担当し、連続した授業実践を行う。</p> <p>学級や授業研究のテーマ等に応じて実習の形態を決定する。週2回(1回4時間)×約19週もしくは週2回(1回8時間)×約10週を行う「分散型」を基本とするが、授業実践の関連で連続して行うこともある。活動やその考察は、ポートフォリオに蓄積する。</p>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年度当初に、リフレクションの活動を通して、主担当教員を決定する。 2. 附属小中学校にて、ガイダンスおよび事前打ち合わせを行う。 3. 随時協議を行い実習の活動と授業研究のテーマと方法を調整する。 4. 150時間以上の活動を行う。 5. 活動は、クラスや学生の実態に応じて調整するが、以下の例がある。 <p>第1週?第4週:学校および児童理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T2として授業に参加しながら、学校及び子どもを理解する力を養う。 ・T1の授業参観を通して、教材および指導法から授業を分析する力を養う。 <p>第5週?第8週:授業分析・授業研究の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T1の授業参観を通して、教材および指導法から授業を分析する力を養う。 ・授業研究のテーマの決定および計画立案を通して、授業をデザインする力を養う。 <p>第9週?第12週:授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 <p>第13週?第16週:授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 ・授業実践を、質的・量的に評価することで、授業実践の評価力を養う。 <p>第16週?第19週:研究授業での提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの実践を反省し、自己の力量形成の課題を検討することで、省察の力を養う。 		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし		
成績評価の方法/Evaluation	評価は、2名の担当教員で行う。観察と実習日誌による活動の状況から、実践的指導力の向上を総合的に判断する。また、リフレクションと関連して行う、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	学卒院生は全員必修		
キーワード/Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	教育実践プロジェクトIIB/Project of Educational Practice IIB		
代表教員(所属)/Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別/Type of Class	実習	時間割コード/Registration Code	M404140
開講学期曜日時限/Period	2017年度/Academic Year 通年/Year-long 他/Oth.	単位数/Credits	5単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	長期インターンシップIを踏まえて、教壇実習を中心に実習しながら自己の課題解決を遂行する。その中で、深い子ども理解に基づいた授業計画力、授業指導力、授業分析力の更なる向上を身につけることができる。現職院生や連携協力校の職員と協力しながら、連携協力校の実情に応じて設定された課題等の解決をすることで、学校改革・授業改善の理論と方法を理解することができる。		
授業の達成目標/Course Goals	(学卒院生) 深い子ども理解に基づいて、授業を計画すること、授業指導を展開すること、授業を分析することができる。 学校改革・授業改善の理論と方法を理解することができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学卒院生の必修科目 主に、学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	学部での教育実習および長期リフレクションを基礎とする。		
関連科目/Related Courses	学部での教育実習および長期リフレクションを基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団作り論」「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションII」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(授業の方法) 授業は、主担当教員および副担当教員が共同で授業を担当する。連携協力校の特定のクラスに配属される。長期インターンシップと同様の活動を行う中で、前年度の自己の課題を解決する。更に、現職院生や連携協力校の職員と協力しながら、学校テーマの解決にも協力する。 学級や授業研究のテーマ等に応じて実習の形態を決定する。週2回(1回4時間)×約19週もしくは週2回(1回8時間)×約10週を行う「分散型」を基本とするが、授業実践の関連で連続して行うこともある。活動やその考察は、ポートフォリオに蓄積する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. 連携協力校にて、ガイダンスおよび事前打ち合わせを行う。 2. 随時協議を行い、自己の課題解決と連携テーマを受けた教育実践プロジェクトの活動を調整する。 3. 150時間以上の活動を行う。 4. 活動は、クラスや学校の実態に応じて調整するが、以下の例がある。 第1週～第4週: 学校および児童理解 ・T2として授業に参加しながら、学校及び子どもを理解する力を養う。 ・児童生徒の実態、地域のニーズ、学校の教員組織などを把握する。 第5週～第8週: 授業研究の計画 ・T1の授業参観を通して、教材および指導法から授業を分析する力を養う。 ・前年度の課題との関連から授業研究のテーマの決定し、授業実践の計画を立案する。これによって、授業をデザインする力および授業研究を計画する力を養う。 ・課題解決に向けた授業を実践し、授業記録を作成し、授業の有効性などの授業分析を行う。その中でプログラムの見直しや修正を行う。 第9週～第12週: 授業実践 ・授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 ・授業実践を、質的・量的に評価することで、授業実践の評価力を養う。 ・TT指導等をおこなうことで、他の教員と連携する力を養う。 第13週～第16週: 連携テーマに関する提案授業の計画 ・連携テーマに関する提案授業の計画を立案する。これによって、授業をデザインする力および授業研究を計画する力を養う。 第16週～第19週: 研究授業での提案 ・自らの実践を反省し、自己の力量形成の課題を検討することで、省察の力を養う。 連携テーマに関連する提案授業を行い、他の教師との研究協議を行うことで、協働によって省察する力を養う。		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし		
成績評価の方法/Evaluation	評価は、2名の担当教員で行う。観察と実習日誌による活動の状況から、実践的指導力の向上を総合的に判断する。また、リフレクションと関連して行う、課題設定、計画立案、省察、改善等の過程も評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	学卒院生は全員必修。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			